

Shizuoka春の芸術祭2010

Spring Arts Festival Shizuoka 6月5日[土]—7月4日[日]
5 June-4 July

未完成な世界

harmony

恋の終わらざるごとく
世界も終わらざるなり~

芸術 宮城聡が選ぶ演劇世界の最先端!

●パール・ギュント ●王女メデア ●若き俳優への手紙

●4.48 ●彼方へ オード海の讃歌 ●セキュリティー・オブ・ロンドン ~監視カメラの王国~

●頼むから静かに死んでくれ ●アルルカン、天狗に出会う~(H)arlequin/Tengu~

●リオ・デ・ジャネイロ つかの間の愛 ●南十字 はおうかきよう路

●毛皮のマリー ●太陽の帝国 ●霸王歌行—項羽、歌の翼にのる

SPAC
SHIZUOKA PERFORMING ARTS CENTER

「Shizuoka 春の芸術祭 2010」

まもなく開幕!

大解剖! 街がフェスティバルに!

恋の終わるまで
世界が終わるまで



「Shizuoka 春の芸術祭」は今年で11回目を迎えます。毎年、海外からたくさんのアーティストが静岡を訪れ、SPACと一緒に演劇祭を盛り上げます。今年も11カ国13演目のラインナップでお贈りする「Shizuoka 春の芸術祭2010」。SPACが静岡から発信し続けているこの国際演劇祭、実は、世界でもShizuokaだけのものだと評判なんです。そのヒミツを少しだけご紹介します!

「Shizuoka 春の芸術祭」、その“おもてなしの心”

静岡に滞在するアーティストたちは舞台芸術公園に宿泊します。舞台芸術公園はSPACの拠点のひとつ。劇場施設のほかに、ゲストアーティストのための宿泊施設があります。宿泊施設と言っても、立派なホテルマンがいるわけではありません。部屋の割り振りからベッドメイキング、備品の準備までSPACのスタッフがこなしています。こういったおもてなしの心こそ、海外のアーティストたちにとってもビックリされること。私たちSPACスタッフが隅から隅まで自分たちの手で準備をする。その心意気が他に類を見ないほど珍しいことのようなんです。世界中どこを探してもこんな演劇祭はなかなかない! そう言うアーティストたちはまた静岡へ来ることを約束してくれます。

俳優たちのカフェ営業!

静岡芸術劇場内のカフェ「シンデレラ」と舞台芸術公園のカフェ「カチカチ山」はSPACの俳優たちが中心になって営業しています。これもSPACの“おもてなしの心”のひとつ。珈琲や紅茶を、一杯一杯、俳優らご提供します。昨日観たお芝居に出演していた俳優がウェーターに! なんてこともよくあります。“隅から隅まで自分たちの手で”というSPACのおもてなしの心がこんなところにも息づいています。



フェスティバルは街も巻き込む!

フェスティバル期間中、「スノドカフェ」というお店がフェスティバルbarに大変身します! 海外からやって来たアーティストたちも集合し、今観たばかりの舞台について熱く語り合うことができる交流の場所です。(詳細はP20) 伝馬町けやき通りでは恒例の路上パフォーマンスを決行! 街のなかへパフォーマーが踊り出て、フェスティバルの熱気を伝えます。(詳細はP20) 劇場から街へ、「Shizuoka春の芸術祭2010」は街をも巻き込んだ祭典です。

SPACへの声援 ~「Shizuoka 春の芸術祭2010」に期待!~

今年から本格的にボランティア・スタッフが活躍しています。その名も「SPACシアタークルー」。中高生も多く参加しているのが特徴です。開幕に先駆けて、シアタークルーのメンバーへ春の芸術祭の作品映像試写会を行いました! クルーの反応やいかに…「Shizuoka 春の芸術祭2010」へ寄せる期待を語ってもらいました。

■大野博美さん
『王女メデア』と『パール・ギェント』はベクトルが真逆な作品だそうですが、だからこそ、2本合わせて観ることで、新たな世界が開けそうです。

■堀田瑞季さん
特に気になったのは「セキュリティ・オブ・ロンドン」です。出演者のゼナ・エドワーズさんがミュージシャンであるということも、音楽好きの私には、彼女がどんな風にあのBOXシアターで監視カメラの街を表現するのか、見てみたいです。

■大石夢子さん
『王女メデア』の声のパフォーマンスがすごそうで見たいと思いました。「南十字路」の演劇スタイルがちよっと違って良い刺激がもらえそうと思いました。

※試写会に参加したSPAC県民劇団「静火」参加者からも期待の声がとどいています。
■岩崎政子さん:『彼方へ 海の讃歌』、演出家のクロード・レジさんが86歳という高齢で頑張っている姿に感動しました。
■花井大輔さん: 笑も涙も有り、身体を表現する世界の中で何を思い感じるのだろうか、楽しみです。
■蔭山ひさ枝さん: 春芸期間は観劇貧乏になりますが…、なるべく多くのものを観たいなあと思います!

		6月 JUNE					7月 JULY					
スケジュール	5日[土] SAT	6日[日] SUN	11日[金] FRI	12日[土] SAT	13日[日] SUN	19日[土] SAT	20日[日] SUN	25日[金] FRI	26日[土] SAT	27日[日] SUN	3日[土] SAT	4日[日] SUN
静岡芸術劇場 Shizuoka Arts Theatre	パール・ギェント 16:30			若き俳優 13:00	頼むから静かに死んでくれ 15:30	頼むから静かに死んでくれ 14:30	死んでくれ 14:00		リオ・デ・ジャネイロ 14:30	ジャネイロ 16:00	毛皮のマリー 16:00	
静岡芸術劇場内 カフェ「シンデレラ」 Café Cinderella in Shizuoka Arts Theatre								南十字路 19:30		南十字路 19:30		
屋内ホール 「楢田堂」 Ellipse Theatre DAENDO			18:30	彼方へ 18:30	18:30	アルカン、天狗に出会う 11:00 19:00						
舞台芸術公園 榎古場棟 「BOXシアター」 Box Theatre	4,48 13:30	13:30		セキュリティ・オブ・ロンドン 16:00	13:00						霸王歌行 12:30	13:30
野外劇場「有度」 Open Air Theatre UDO						王女メデア 19:30			王女メデア 19:30		太陽の帝国 19:30	



ソールヴェイを歌って

横山靖代

先日、『パール・ギュント』の公演の前、ロビーで演奏させていただく機会を得た。「ソールヴェイグの歌」と「ソールヴェイグの子守唄」の2曲で、いずれも、グreek作曲の劇音楽では、パールの旅を巡る重要な場面で演奏される。

開演前のとてもワクワクした時間に、静岡芸術劇場の素晴らしい空間を自らの音で満たすことを心がけた。

公演4日目、演奏後に『パール・ギュント』を観ることができた。

劇場の空間を効果的に使った立体的な舞台、会場を埋め尽くす音楽とリズムに圧倒された。また、その音やダイスの穴を巧みに使った場面の切り替え等、計算された空間のコントロールが素晴らしかった。

演出ノートで宮城聡氏は〈『パール・ギュント』は「アイデンティティ」についての話です。〉と記している。観客は、自分自身の感性で、パールの旅にさまざまなアイデンティティを感じるのだろう。

私は、母オーセと、待ち続けるソールヴェイの存在がパールの自己形成に不可欠であることを改めて感じた。また、ダイスやタクトを振るキャストが音とエネルギーを操り、空間を支配しているように感じられたことも興味深かった。

最終日、演奏を聴いていたご婦人が「声を聞いた瞬間に涙があふれてきました、この美しい曲は何ですか」と声をかけてくれた。「パールの帰りを待ち続けるソールヴェイグの歌です」と答えた。

その方は、『パール・ギュント』を観た後、ソールヴェイの存在をどう感じたのだろうか。

横山靖代 (よこやま・やすよ)

ソプラノ歌手、常葉学園短期大学音楽科非常勤講師、二期会会員。これまでに数多くのリサイタルを開催するほか、コンサート・ソリストとしても多数のオーケストラと共演。2009年7月には静岡音楽館AOLにて、オペラ『椿姫』『リゴレット』ハイライト集によるジョイントリサイタルを開催し好評を得る。



宮城聰の傑作! ここに復活!

王女メデシア

Medea

台本・演出: 宮城聰 Directed by Satoshi Miyagi

原作: エウリピデス Original text by Euripides

音楽: 棚川寛子 Music by Hiroko Tanakawa

出演: 美加理、阿部一徳、赤松直美、池田真紀子、石井萌水、大高浩一、
片岡佐知子、木内琴子、榊原有美、桜内結う、大道無門優也、高澤理恵、
たきいみき、仲谷智邦、本多麻紀、三島景太、吉植荘一郎、若宮羊市

Performed by Micari, Kazunori Abe, Naomi Akamatsu, Makiko Ikeda, Moemi Ishii, Kouichi Ohtaka, Sachiko Kataoka, Kotoko Kiuchi, Yumi Sakakibara, Yu Sakurauchi, Yuya Daidomumon, Rie Takazawa, Miki Takii, Tomokuni Nakaya, Maki Honda, Keita Mishima, Soichiro Yoshiue and Yoichi Wakamiya

6月19日[土] 26日[土] 19時30分開演 19 and 26 June at 19:30

舞台芸術公園 野外劇場「有度」 Open Air Theatre UDO, Shizuoka Performing Arts Park

上演時間: 80分 Duration: 80 minutes

■ 4,000円/同伴チケット(2枚)7,000円/大学生・専門学校生2,000円/高校生以下1,000円

※背もたれのない客席になります。※雨天時でも上演いたします。

10カ国19都市で喝采の嵐! 圧巻のパフォーマンスが再び野外劇場に! 4月にはイベロアメリカ国際演劇祭(コロンビア)で上演

『王女メデシア』は、99年に初演され、翌年の第1回「Shizuoka春の芸術祭」で上演されて以来、韓国、ロシア、イタリア、フランス、インドなど10カ国19都市で上演を重ねてきた宮城聰の代表作のひとつです。古代ギリシアの英雄イアソンとその妻メデシアをめぐる繰り広げられる壮大な「子殺し」の悲劇を、明治時代の日本に舞台を移し、歓楽街の座興で演じられる劇中劇として再現します。セリフを語るのはすべて男。その言葉に操られるように動く女たち。宮城聰が長年にわたって追求してきた語りと動きを分ける「二人一役」の手法がストーリーと密接にからみ合い、やがて言葉の支配をくつがえすかのように女たちの反乱が始まります——。「語り」「動き」「生演奏」の三位一体によるこの〈祝祭としての悲劇〉は、宮城の方法論の最良の成果のひとつとして、国と文化圏を超えて高い評価を獲得しています。メデシアの華麗なる復讐劇が、10年ぶりに日本平の森を燃え立たせます!

あらすじ

ギリシアの王子イアソンはアジアへの遠征を課され、巨大な軍艦を仕立ててコルキスに向かった。コルキス王の娘メデシアはイアソンに心を奪われ、みずから父を裏切ってイアソンを勝利に導く。そして彼の軍艦に乗り込み、イアソンとともにギリシアに凱旋した。しかし叔父の悪意から故郷に住めなくなったイアソンとメデシアは、別の国に落ちのびる。二人のあいだには息子も生まれ、メデシアはここで平凡な一人の妻として貧しくも幸せに暮らしていた。

だがイアソンのほうは、一介の落人として人生を終えてゆくことに耐えられず、土地の王クレオンの娘との婚姻を図る。男の跡取りのいなかったクレオンは、イアソンとの縁談を喜び、前妻メデシアが害をなさぬようにとメデシアの追放を決定する。

夫に捨てられて泣き暮らしていたメデシアは、その上に所払いを命じられて絶望の淵に追い詰められる。しかしその究極の逆境で、彼女の体内に眠っていたアジアの血=巫女のパワーが目覚ます。そしてこの上なく激しいメデシアの復讐が始まる。

メデシアはクレオンとその娘を殺害する。さらにイアソンを取って殺さず、彼を苦しめるために自分の産んだイアソンの息子を殺す。たった1日のうちにすべてを失ったイアソンは呆然と立ち尽くすのみ。メデシアは息子の死体を抱えて悠然とこの地を去る……。



©内田琢麻

演劇の神が〈言葉の種〉を撒く!

若き俳優への手紙

Épître aux jeunes acteurs

演出：宮城聡 Directed by Satoshi Miyagi

作：オリヴィエ・ピイ Written by Olivier Py

日本語台本：平田オリザ Japanese text by Oriza Hirata

翻訳：芳野まい Translated by Mai Yoshino

出演：ひらたよーこ、杉山夏美 Performed by Yoko Hirata and Natsumi Sugiyama

製作：SPAC Produced by SPAC

6月12日[土] 13時開演 13日[日] 15時30分開演 12 June at 13:00 and 13 June at 15:30

静岡芸術劇場 Shizuoka Arts Theatre

上演時間：90分(予定) Duration:90 minutes (expected time)

■ 4,000円/同伴チケット(2枚)7,000円/大学生・専門学校生2,000円/高校生以下1,000円

★静岡県内の中学生は、30名までご招待あり。(お問い合わせ、お申し込みはSPACチケットセンターまで)

宮城、ピイ、オリザ、よーこ…

想像を越えた夢のコラボレーションが実現!

「Shizuoka春の芸術祭2008」ではじめて日本公演を行ったピイが上演したうちの1本がこの『若き俳優への手紙』でした。観客が目当たりしたのは、まぎれもなく「演劇の奇跡」。ピイの劇詩は、言葉が肉体に宿ることの神秘を、圧倒的な衝撃とともに伝え、野外劇場は深い感動に包まれました。

今回は、このピイの傑作を、現代口語演劇の旗手・平田オリザの日本語台本をもとに、SPAC芸術総監督・宮城聡の演出でおくります。

これだけでも「事件」と言うには充分の共作ですが、この劇詩を身をもって演じるのは、オリザ氏の実生活上のパートナーであり、現代口語演劇の体現者であるとともに、現実離れた独特の存在感で異才を放ち、ミュージシャンとしての活動も盛んな、女優・ひらたよーこ…。

◇役者、がそろいました。もう見逃す手はありません。

あらすじ

悲劇の女神に扮した「詩人」が次々と襲いかかる演劇の敵たちに立ち向かい、時に滑稽に、時にグロテスクに、この演劇という奇跡を語る。舞台を通してのみ語りうる、ピイ演劇論の精華。

協賛：キュルチュールフランス



後援：フランス大使館



、東京日仏学院



『王女メデア』と宮城聡の奇妙な情熱

サエキけんぞう

宮城聡の代表作『王女メデア』を見たのは、嵐吹きすさぶ、東京国立博物館本館であった。不穏な天候の中、展示閉館後の閉ざされた門を開けて入るといふ、奇妙なシチュエーションは、本作の内容と合いまって、非常に味わい深いものだった。

古代ギリシアの「子殺し」の悲劇を、明治時代の日本に舞台を移して行われる。1872年(明治5年)に創設された日本最古の博物館とは、出来すぎた舞台だ。

石材中心でヒンヤリと天井の高い本物の明治発空間に、しつらえられた異様な明治異空間。歓楽街という設定の舞台には、ホームレス風の老婆が座っていた。

歴史を隔絶したその空間に、思わず、平成の僕らは、今どこに向かっているのだろうか?と考えるしまった。携帯に、ネットに、すっかりメディアナイズされた肉体は空洞になったよう。草食男子という言葉も一般化するこの頃は、性欲さえも相対化されている。

『王女メデア』舞台は、極めて原理的に、ギリシャが日本、メデアの出身国コルキスが朝鮮半島に置き換えられていた。

観衆の心は漂流をし始める。

舞台を囲んだついでが払われ、仲居の女性達が現れ、黒い法服に身を包んだ男優たちも登場。劇中、女性の台詞はすべてこの男性が代弁するという趣向。

扇情的で圧倒的な男達の声。それは戦前、大陸に向けてひたすら拡大志向だった荒くれた魂の残響だ。それが影アナのようになって吠え渡る。現在の大人しい男子達の声は、誰の影アナなのだろうか?アメリカの意志?それとも?

ラスト、女優は誘惑的な衣装に変わり、メデアを先頭に、男達を次々と虐殺するという衝撃。

現在の女性はとっくに上位になっている。この宮城聡の描く女性の反逆は、さらにその先の世界を想起させる。戦争的境界を超えて、女は男を殺し続けるのか?

たかだか、たった100年以内に繰り広げられた、日本の、大陸との壮大な因果。そして戦争をはさんで激変する男女バランス。その中で迷子のようにつたっている僕ら現代人を、宮城聡の『王女メデア』は、不思議な引力で浮遊させる。

宮城聡と最初に会った時の、あの時空を旅する妖怪のような奇妙な笑顔は忘れられない。男女の境界も、超えているようだった。同じ頃、全く別の場所『聖ミカエラ学園漂流記』で会った美加理は、驚くべき美貌とジェンダー性を濃厚に漂わせ、はなはだ痛快に男と社会を撃っていた。

その二人の作りだしたこの壮大なカラクリ装置で、我々はもう一度、自分達の見知らぬ渡航先を占ってみようではないか?

サエキけんぞう

ミュージシャン・作詞家・プロデューサー。

1980年「ハルメンズの近代体操」でデビュー、86年パール兄弟「未来はパール」(ポリドール)。作詞家として沢田研二、小泉今日子、モーニング娘、サディスティック・ミカ・バンド他、多数に提供。著書「歯科医のロック」「スパムメール大賞」(09年文春文庫)。





©記憶屋「废墟」



©Pascal Victor

オリヴィエ・ピ

劇作家、演出家、俳優。オデオン座芸術総監督。

1965年、南仏グラス生まれ。87年にパリ国立高等演劇学校(コンセルヴァトワール)に入学、並行してカトリック学院で神学と哲学を学ぶ。95年、アヴィニオン演劇祭で上演時間24時間の自作『常夜灯一果てしない物語』7日間連続公演を敢行し、一躍脚光を浴びる。98年から2007年までオレアン国立演劇センターを指揮、同年3月にオデオン座の芸術総監督に就任。03年にはクローデル『縞子の靴』(ジャンヌ・バリバル主演)の数十年ぶりの通し上演(11時間)を成し遂げた。08年にはギリシア悲劇『オレスティア』三部作を自らの新訳で通し上演。『Shizuoka春の芸術祭』では、2008年に『イリュージョン・コミック舞台は夢』と『若き俳優への手紙』の2作品を、2009年には『オリヴィエ・ピのグリム童話』3部作を上演した。



©T.Aoki

平田オリザ(ひらた・おりざ)

劇作家・演出家、大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授、内閣官房参与、劇団「青年団」主宰、こまばアゴラ劇場芸術監督、(財)舞台芸術財団演劇人会議評議員、東京芸術文化評議会評議員、三省堂小学校国語教科書編集委員ほか。

1962年東京生まれ。国際基督教大学教養学部卒業。95年『東京ノート』で第39回岸田國士戯曲賞、2003年『その河をこえて、五月』で第2回朝日舞台芸術賞グランプリを受賞。02年著書『芸術立国論』(集英社新書)が第7回AICT演劇評論賞、06年モンブラン国際文化賞を受賞。フランスを中心に世界各国で作品が上演・出版されている。02年以降、中学国語教科書にも採用された平田のワークショップの方法論に基づき、年間30万人以上の子供たちが教室で演劇を創作している。08年には、大阪大学で世界初のロボット演劇『働く私』を発表し世界的な注目を集める。



ひらたよこ

劇団「青年団」俳優、ことばをうたうバンドあなんじゅばす主宰。

1965年東京生まれ。作曲家の父のもと作曲に親しんで育つ。国際基督教大学教養学部在学中に劇団「青年団」に入団。以後、『東京ノート』をはじめとする数多くの作品に出演、ヨーロッパ等の海外公演にも多数参加。同時にシンガーソングライターとしての活動を開始。96年に演劇と音楽の結実点として『あなんじゅばす』を結成。作曲、歌、ピアノを担当。正岡子規の短歌から谷川俊太郎、藤井貞和等の現代詩まで100年の言葉を歌う活動は、音楽というジャンルを越え、演劇、短歌、現代詩など様々な分野で高い評価を得ている。2004年にローマ、06～10年にパリで5回のコンサートを行う。09年に日仏イラン合同公演『ユートピア?』に出演。09～10年、日仏合同公演『鳥の飛ぶ高さ』でフランス国内巡演(パリ市立劇場他)に出演、挿入歌作曲も手がける。最近の活動では、矢野龍と共に谷川俊太郎の詩編『少年』に作曲、コンサートを行っている。

これは、ほかでもない、あなたへ宛てた手紙である。

大岡 淳

文芸批評家・柄谷行人は「近代文学の終り」を宣言した。これは、文学の中でも小説が特権化された時代が終わった、という意味である。日本の文脈で言えば「純文学」が王座から滑り落ちた、ということだろう。その一方で、ミステリーやライトノベルやケータイ小説は流行している。つまり、文学が「芸術」を名乗る時代は終わり、エンタテインメントとしてのみ、文学は生き残ろうとしている。これは、他の表現ジャンルにもあてはまる現象である。「純粋美術」よりも建築やデザインの方が、「現代音楽」よりもポピュラー音楽の方が、消費者の嗜好を形にすることで、遥かに親しまれている。映画はテレビドラマの2時間版やマンガの実写版になってしまったし、演劇もまた、ミュージカルやサーカスのようなエンタテインメントとしてしか、生き残ることはできないのかもしれない。

つまり私たちは、近代という時代において尊敬を集めた「芸術」なるものの凋落を目にしているのだ。では、「芸術」を殿堂に祀った先達であるヨーロッパの人々は、この状況をどう考えているのだろうか? とりわけ、「総合芸術」とも呼ばれた演劇の凋落を?

パリ・オデオン座芸術総監督である、劇作家・演出家オリヴィエ・ピの戯曲『若き俳優への手紙』は、言葉の価値・演劇の価値が下落したことを嘆き、その再生を祈念する「詩人」に対して、多種多様なキャラクターが論争を挑む、まさしくドラマチックなドラマである。これこそ、ヨーロッパの最深处から発せられた「芸術」復興の叫びと言ってよい。だがそれは「芸術」に関心を寄せる人々だけでなく、全ての現代人に向けられたものだ。「芸術」復興に賛同するか否かに関わらず、この作品を通して私たちは、現代という時代が抱え込む、空虚の大きさを思い知ることになるのだから。

今春、平田オリザと宮城聡のコラボレーションによって、この『若き俳優への手紙』が、現代の日本人へ宛てられた手紙へと生まれ変わる。さて、あなたはどんな返事を書くだろうか?



大岡 淳(おおおか・じゅん)

演出家・批評家。

1970年兵庫県生まれ。(財)静岡県舞台芸術センター(SPAC)文芸部スタッフ、静岡県袋井市・月見の里学遊館芸術監督、SPACでの演出作品に『ハイナー・ミュラー作『大人と子供によるハムレットマシーン』、月見の里学遊館での演出作品にモリエール作『ゴリ押し結婚』がある。



ダンスはそれでも進化する!

4.48

4.48

振付: スン・シャンチー Choreographed by Shang-Chi Sun

装置デザイン: アニタ・フックス Scenic design by Anita Fuchs

出演: カンパニー・シャンチー・ムーヴ Performed by Shangchi move

6月5日[土] 6日[日] 13時30分開演 5 and 6 June at 13:30

舞台芸術公園 稽古場棟「BOXシアター」 BOX Theatre, Shizuoka Performing Arts Park

上演時間: 60分 Duration: 60 minutes

■ 4,000円/同伴チケット(2枚)7,000円/大学生・専門学校生2,000円/高校生以下1,000円

※背もたれのない客席になります。

ヨーロッパで旋風を巻き起こす若き俊英スン・シャンチー! サラ・ケインの問題作から生まれた息をのむムーブメントの連続!

台湾出身のスン・シャンチーはヨーロッパで注目を浴びる新進気鋭の振付家。数々の名門ダンスカンパニーで研鑽をつみ、いまや振付家としてヨーロッパ中の熱い視線をあつめています。サラ・ケインの断片的で詩のような言葉を手がかりに、甘美なまでにしなやかな身体を駆使するダンサーたちが、現実と想像の境界線を行き来する『4.48』。アジアの身体をもって、これほどまでに美しく世界に挑戦した男はかつていなかったでしょう。まさにアジアンビューティー!

「BOXシアター」という濃密な空間で、世界が注目するダンスの〈いま〉を目撃せよ!



スン・シャンチー

ダンサー。

台湾出身。国立台湾芸術専科学校や雲門舞集(クラウド・ゲイト・ダンスシアター)にてダンスを学んだのちドイツへ渡り、エルンスト・ブッシュ演劇大学ベルリンと複数の教育機関によって共同設立されたコースにて、現在振付学の修士号を取得中。

ドイツを代表するコンテンポラリー・ダンスの振付家サシャ・ヴァルツが設立したサシャ・ヴァルツ・アンド・ゲッツやニュルンベルク・ダンス・シアター、イタリアのトリノ・バレエ・シアターなどの作品に出演。2005年、パヴァリア演劇・文学賞を受賞。07年、「Walk Faster」で台北芸術節賞にノミネート。08年、シュトゥットガルト国際ダンスソロ一人芝居フェスティバル振付部門で最優秀賞を受賞。彼の作品は、つねに複数の国際芸術祭に招聘され続けている。



アニタ・フックス

舞台装置家。

2004年より、ニューヨークやニューイングランドにて、フリーランスの装置家・舞台美術アーティストとして仕事に携わる。ニューヨークにある数々の劇場や、ハーバード大学でのモスクワ芸術座付属演劇学校によるトレーニング、メリーマック・レパトリー・シアター、ハンティントン・シアター・カンパニーなど、多くの重要な劇場と仕事を共にする。現在はベルリンを拠点に、ヨーロッパやアメリカなど様々な国で活躍を続けている。02年、『アマデウス』(ハンティントン・シアター)は、ニューイングランド独立批評家連盟よりアディソン・アワード(最優秀舞台美術賞)を受賞。06年、08年にも同賞にノミネートされている。

※本作はサラ・ケイン作『4時48分サイコス』にインスパイアされて創作されました。

後援: 台北駐日経済文化代表処

Shang Chi Sunが静岡SPACにやってくる。

矢内原美邦

わたしが彼の推薦文を書くのなんておこがましいけど、レコメンド!させていただきます。

なにより高い身体能力!そして豪快にして、繊細に動く体が描き出すライン!

それは、観ている人の心に一步、一步、確実に、そして刻々と歩みよってくる。

本当の静寂のなかで、美しく、切なく、激しく、愛おしく、まるでひとりひとりの人生を、

身体だけで紡ぎだすように、そのラインたちは、なにもない空間に描き出されていくんだな。

ゆっくりと流れていく時間は、まるで止まってしまっているかのようにも見えて、

もうずっとまえからそこにあるかのようにも見えて、

それでもわたしたちはそのことにいま初めて気付いたかのような感動を覚えて、

その瞬間、瞬間に消えていくなにかを見送りながら、

永遠にちかい叫びのようなものと握手をするのです。

それは生きていこうとする人間のエネルギーが凝縮された風景の連続であって、

それを観る者たちは、なにやらずしりと重いなにかを受け取る。重い。

ときに明確にはっきりと、ときに曖昧でぼんやりと、描き出されるライン、

黒だったり、白だったり、グレーだったり、いろんな色のライン、

それらはわたしたちの身のまわりにあるごく些細な日常とも結びつく。

椅子、机、部屋、家、ビル、町、祖母、父、母、友達、..

あらゆるものと複雑にからみあって、それらは大きな世界へと広がっていく。

意図的でもなく、恣意的でもなく、

そのまま上がりつづけて、下がりつづけて、広がっていく。。。

彼の身体を観ているとなんだが自由になれたような気がする。

ああ、人って自由なんだと思うのです。そしていつでも独り。

是非、皆様にもSPACに足を運んでみていただきたいと願います。

矢内原美邦 (やないはら・みくに)

振付家/劇作家/演出家。

1997年、各分野で活躍するアーティストを集めたパフォーミング・アーツカンパニー「ニブロール」を結成、代表兼振付家としての活動を始める。日常的な身振りをベースに現代の東京の空気をドライに提示する独自の振付で、世界的に活躍している。

<http://nibroll.com>



演劇/フランス・ポルトガル Theatre/France-Portugal

フランス語上演・日本語字幕
In French with Japanese subtitles

恋の終り
世界は
終わる

感覚の限界に耐えろ! 最後の巨匠、初の日本公演決定!

彼方へ 海の讃歌

Ode maritime

演出: クロード・レジ Directed by Claude Régy

作: フェルナンド・ペソア Written by Fernando Pessoa

出演: ジャン=カンタン・シャトラン Performed by Jean-Quentin Châtelain

6月11日[金] 12日[土] 13日[日] 18時30分開演 11, 12 and 13 June at 18:30

舞台芸術公園 屋内ホール「楢円堂」 Ellipse Theatre DAENDO, Shizuoka Performing Arts Park

上演時間: 110分 Duration: 110 minutes

■ 4,000円/同伴チケット(2枚)7,000円/大学生・専門学校生2,000円/高校生以下1,000円

6月11日(金)16時
スペシャル・ブートーク
「巨匠クロード・レジは語る」開催
詳しくはP48へ

御年86歳、第一線で走り続ける

フランス演劇界の重鎮、静岡に降臨!

名優ジャン=カンタン・シャトランとともにアートの臨界点を突破!

アート界のワールドシーンで燦然と輝く巨星クロード・レジ。表現意欲は衰えることを知らず、その作品はますます過激に研ぎ澄まされています。レジ作品の特徴はなんと言っても舞台の暗さ! 見えるか見えないか、そのギリギリのところ勝負するのがこの演出家のこだわってきた挑戦です。レジの作品がフランスで上演されるときは即刻ソールドアウトになるのが定番、そのくせ観客の3分の1は必ず途中退場するという“伝説”もまた、観客の胸を騒がす定番になっています。気骨溢れる筋金入りのアーティスト、クロード・レジの歴史的な日本初公演を支えるのはスイスの名優ジャン=カンタン・シャトラン。渾身のパフォーマンスによって、「アヴィニヨン演劇祭2009」では多くの演劇人に絶賛された作品が早くも静岡に。

京都公演: 6月19日[土] 20日[日] 15時開演

会場: 京都芸術劇場春秋座(京都造形芸術大学内)

京都造形芸術大学舞台芸術研究センター主催(お問い合わせ TEL.075-791-9207)

あらすじ

銀色の海のただ中に、波止場だけが突き出ている。そこに男が一人たたずみ、海に思いを馳せる。文明を逃れて地の果てにある野蛮を夢見る。波止場に立ちつくし、一步も動かないまま、壮絶なインナートリップに身を任せていくのだが...

協賛: キュルチュールフランス、ポルトガル大使館、2010年日本ポルトガル修好通商条約150周年記念

後援: 東京日仏学院、フランス大使館、スイス大使館

「文章の中で、最も重要なことは書かれていないことにあります」。

ドイツ軍占領時代が終わり、私はパリへ来ました。戦争捕虜となった父の期待に添いたく、政治学を専攻しましたが、シャルル・デュラン(Charles Dullin)の舞台芸術の授業を受けるために、大学を中途退学しました。そして別の演劇講習で、生徒の舞台稽古のコーチを務め始めて、演劇の中でそのことに最も興味を引かれました。1952年から演出家として仕事をしています。

ずっと以前から、フェルナンド・ペソア(Fernando Pessoa)の1909年の抒情詩「彼方へ海のオード(Ode maritime)」を演出したいと思っていました。今年の夏、アヴィニオン演劇祭にて実現できました。

港への船の到着が、一人の男に、残忍な感覚と優しい感情を引き起こします。一人の男はフェルナンド・ペソア自身で、想像力に富む現実派技術者アルバロ・ドウ・カンポス(Alvaro de Campos)という独特なアイデンティティを創造して、その人物に成り済まし詩を書きました。男は想像の旅に出て、「彼方へ 海のオード」に登場するすべての人物になりたいという欲望を表現します。犯罪者と被害者、乱暴な男、強姦される女。

私は常に著者の文面を重要視して舞台を作り上げます。文面自体が劇的要素であります。最も重要なことは書かれていないことにあるのだと思っています。書き記された言葉の物語れないことを発見して、それをどのように表現するかを見出す必要があります。

また私にとって、言語の基本は、音と律動によって生み出されるものであるため、俳優との作業は必要不可欠になります。俳優は文章の秘めた部分を外存化することができるのです。

ジャン=カンタン・シャトラン(Jean-Quentin Châtelain)は、この長い詩を演じることのできる、たった一人の俳優だと思います。彼は優れた感受性の持ち主で、表現力の限界まで達して、極限を突破できます。

執筆時の著者の意識状態を把握して、伝えることで、私たちは観客をより深い内面空間へ導きます。

この作品をフランス語圏以外で発表するのは、今回初めてのことになります。私は日本の観客の皆さんがどのように見てくださるか、とても楽しみにしています。

インタビュー・文 Alicia-Michiko HYUGA

Alicia-Michiko HYUGA ウェブサイト www.artmichiko.com



©MARIO DEL CURTO



©MARIO DEL CURTO

クロード・レジ

演出家。

1923年生まれ。特定の劇場や劇団に属することなく、独自の理念で、主に同時代の作家の作品を上演し続けている。52年から活動をはじめ、初期にはガルシア・ロルカやメーテルリンクなどを演出していたが、60年代にマルグリット・デュラスの作品と出会い、『イギリスの恋人』(1969)などを演出。さらに65年からはピンター、オズボーン、ストップワードなど英米の作品を手がけ、70年代以降はナタリー・サロート作品上演の一方でペーター・ハントケ、ボート・シュトラウス(『再会の三部作』1980)などのドイツ語圏戯曲の紹介に勤める。メーテルリンクの『内部』(1986)やアンリ・メシヨニック訳の聖書の一部をもとにした『賢者の言葉』(1995)では言葉や声に関する徹底した探求の成果が見られた。近作ではノルウェーの現代作家ヨン・フォッセの『だれか、来る』(1999)やサラ・ケイン『4時48分サイコシス』(イザベル・ユベール主演、2002)などで話題を集めている。81年以降、パリ国立演劇学校(コンセルヴァトワール)で教鞭を執り、また著書によっても、多くの若い演出家や俳優に影響を与えている。



フェルナンド・ペソア(1888-1935)

ポルトガル出身の詩人。

リスボン生まれ。5歳のときに父親を亡くし、母親が南アフリカの領事と再婚したためダーバンへ移り住む。ダーバンで教育を受けた後、ポルトガルへ戻り大学で学ぶ。「ペソア」という名前以外にも、「カエイロ」「レイス」「カンポス」などの異名で創作し、それらの異名ごとに独自の作風をもつことで知られる。生前はわずかな理解者しか得ることができなかったが、死後、その膨大な遺稿が刊行されるにつれ、大きな注目を集めるようになった。現在は20世紀前半の代表的な詩人と評価される。邦訳に『ポルトガルの海-フェルナンド・ペソア詩選』(彩流社)、『不安の書』(新思案社)などがある。



ジャン=カンタン・シャトラン

俳優。

ジュネーヴ演劇学校、ストラズブル国立演劇学校を卒業後、フランスやスイスでクロード・レジ、ジョエル・ジョワノー、ヴァレール・ノヴァリナなど数々の演出家の作品に出演。映画俳優としてはクレール・ドゥニやアンジェイ・ワイダの映画に出演している。レジ作品は『サタンのはりしい声』(グレゴリー・モットン、1994)、『鷲にナイフ』(デヴィッド・ハロワー、2000)、『目的のない男』(アルネ・リグレ、2007)と三作品に出演し、『レジとの仕事はしんどいので一度やったら六年は休みをおくことにしている』と語っていたが、今回初めて二作品つづけての登場となった。

SPAC芸術街道★ リーディング・カフェ・ツアー

俳優と共におしゃべりをしながら戯曲の読み合わせをする…
そんな気軽な演劇体験から、コミュニケーションの“コツ”が学べるかも!と、
今や東京や名古屋でも大好評の「リーディング・カフェ」。

SPACでは平成22年4月から22ヶ月かけて、
ふじのくに芸術街道を演劇で盛り上げるべく
SPAC俳優が県下の宿場町22ヶ所+αに出張し
話題の「リーディング・カフェ」を開催します!

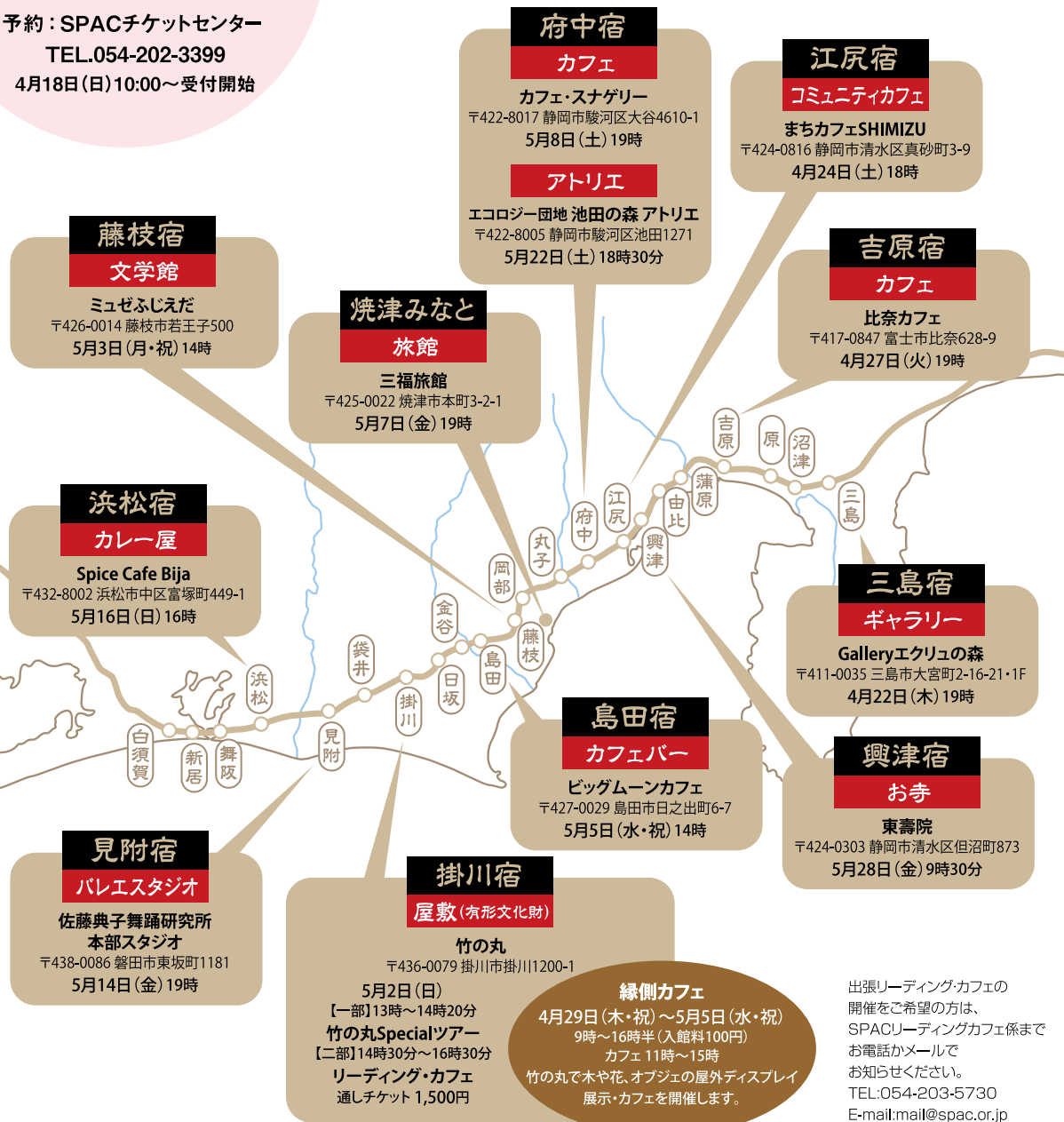
読む戯曲:

エウリピデス作
「王女メデア」

参加費: 1100円
(ワンドリンク・資料代込み)

マイカップ持参の方は1000円!

予約: SPACチケットセンター
TEL.054-202-3399
4月18日(日)10:00~受付開始



出張リーディング・カフェの
開催をご希望の方は、
SPACリーディング・カフェ係まで
お電話かメールで
お知らせください。
TEL:054-203-5730
E-mail:mail@spac.or.jp

オハコ
SPACの新たな十八番!

伝馬町けやき通り 路上パフォーマンス!



日時: 6月6日(日)17時 場所: 静岡市葵区伝馬町けやき通り109前 ※雨天の場合は中止もしくは延期
劇場だけじゃ物足りない! SPACは昨年の秋から街へ飛び出してパフォーマンスを行っています。もはや定番になりつつあるSPACの路上パフォーマンス。けやき通りの街ゆく人を振り返らせずにはいない、このめっぽう熱いパフォーマンスをお見逃しなく! …さあ、109前に集まれ!

春芸のツボ@スノド
5月30日(日)20時より
春の芸術祭2010の魅力を先取り
ここに来れば“10倍楽しく”
観劇できます。

SPAC×スノドカフェ

フェスティバルbar2010

場所: スノドカフェ 〒424-0871 静岡市清水区上原1-7-3
リサイクルブティック スノドール2F TEL.054-346-7669
日時: 6月12日(土)19日(土)26日(土)21時30分より

地図はP30の
25を見てね!

観客の皆様との交流が持てるという“SPACスタイル”が海外から来たカンパニーメンバー達にも好評だった昨年のフェスティバルbar。今年は静岡のアートシーンにはかかせないオルタナティブスペース・スノドカフェで開催! もちろん誰でも参加できます。カフェ文化の本場パリにも知られるこの店で観劇後の高揚感を出演アーティスト達と分かち合しましょう。

SPAC解剖企画!?

D勉強の会『演劇の舞台裏』

出演: 奥野晃士(SPAC俳優)、森千夏(D&DEPARTMENT PROJECT SHIZUOKA by TAITA店長)
日時: 5月29日(土)18時

主催・会場: D&DEPARTMENT PROJECT SHIZUOKA by TAITA TEL.054-238-6678
〒422-8034 静岡市駿河区高松1-24-10

「D&DEPARTMENT PROJECT」をご存知ですか? デザイナー・ナガオカケンメイが立ち上げたデザインとリサイクルを融合させたプロジェクト。ショップやレストランを各地に展開しています。この静岡の拠点がSPAC解剖企画を立ち上げてくださいました。D&Dの森店長がSPAC俳優・奥野晃士からSPACのアレコレを掘り出すトーク・イベント。当日はSPAC俳優によるパフォーマンスもあるかも…?! この機会にSPACのこと、ちょっとだけ深く、知ってください。

「SPAC/大学」連帯企画

劇場と地域をめぐる“知恵”の探求!

静岡にSPACがあること。地域に公共劇場があること。その可能性とは何でしょうか?
静岡の大学の先生方に、この未来へひろがる“知恵”について徹底解剖していただきます!エキサイティングな探求の旅へ、いざ!

静岡文化芸術大学 公開講座

申込先: 静岡文化芸術大学企画室
TEL.053-457-6113 FAX.053-457-6123
メール: oubo@suac.ac.jp

「舞台芸術の新たな可能性に向けて」

- 「舞台芸術の国際交流とその意義」 講師: 高田和文(芸術文化学科 教授)
- 「大学劇場の可能性について」 講師: 永井聡子(芸術文化学科 講師)
- 日時: 5月21日(金)14:40~16:10 ●会場: 静岡文化芸術大学

静岡県立大学 公開講座

静岡県立大学での開催も予定しております。
詳細はSPACへお問い合わせください。

両講座共通: 無料、要予約 お問い合わせ: SPACチケットセンター TEL.054-202-3399

社会批判ワン・ウーマン・ショー! セキュリティー・オブ・ロンドン ～監視カメラの王国～

Security

演出：アントニー・シュラブサル Directed by Anthony Shruballs

作・出演：ゼナ・エドワーズ Written and performed by Zena Edwards

6月12日[土] 16時開演 13日[日] 13時開演 12 June at 16:00 and 13 June at 13:00

舞台芸術公園 稽古場棟「BOXシアター」 BOX Theatre, Shizuoka Performing Arts Park

上演時間：65分 Duration: 65 minutes

■ 4,000円 / 同伴チケット(2枚) 7,000円 / 大学生・専門学校生 2,000円 / 高校生以下 1,000円

※背もたれのない客席になります。

ゼナ・エドワーズによるワークショップ開催決定!!
『パフォーマンスにおける境界とは?』

6月12日[土] 10時～12時

舞台芸術公園 稽古場棟「BOXシアター」

参加費無料

英国の今のパフォーマンス・ポエトリー界をリードするゼナ・エドワーズが、ステージを飛び出し、皆さんと同じ「目」線で丁寧に紐解く詩の世界。あなたもパフォーマンス・ポエトリーを体感しませんか?

※ワークショップへのご参加は、「セキュリティー・オブ・ロンドン」公演のチケットをご予約の方に限らせていただきます。詳細はSPACチケットセンターまで。

大都会ロンドンの真実をえぐるパフォーマンス・ポエトリーの傑作! 歌声にのせてつづられる人種を越えたヒューマンドラマ!

ロンドンのパフォーマンス詩人の新星ゼナ・エドワーズ。ヒップホップやアフリカ音楽まで織り交ぜた、ハイブリッドでエキサイティングなワン・ウーマン・ショー。大都会ロンドンの路地裏に生きる4人の登場人物を笑いと涙でつづる『セキュリティー・オブ・ロンドン～監視カメラの王国～』はゼナの才知が存分に発揮された作品です。しかもこのパフォーマンス、監視カメラの目線で展開します……!?

ロンドンといえば繁華街や住宅街に監視カメラが設置され、四六時中、監視員があらゆる視点から「目」を見張っているという、まさに監視カメラの王国。路地裏まで注視するこの「目」が見届けるのは、あらゆる差別を超越する衝撃の瞬間です。いつしか観客の「目」も監視カメラと重なって…

あらすじ

大都会ロンドンの路地裏に住む4人の出会いの物語。パレスチナ出身の47歳マフムードは、ロンドン生まれでアフリカ系カリブ人の16歳の少女アイリーンに出会う。アイリーンの双子の兄であるエリジャーは、第二次世界大戦の帰還兵で82歳のアルガンンと出会う。そして世代や人種、文化の違いを超えた交流が芽生えていく……。アフリカの語り部グリオのように、ゼナは歌と詩を織りまぜながら物語を語り、ときには観客に、登場人物の選択について決断を迫る。監視カメラの目を通じて、不思議な物語が浮かび上がってくる。

後援：ブリティッシュ・カウンシル



アントニー・シュラブサル

演出家。

ドレイトン・コート・シアター(ロンドン)の芸術監督を務めたのち、現在はフリー。主な演出作品に『かもめ』、『検察官』、『料理昇降機』、『ショッピング・アンド・ファッキング』、『ロッカバイ』、『出口なし』、『マラー/サド』、『プラスチック』など。またベケット、ピンター、メイエルホリドなどに関する著作もある。英国王立芸術協会特別会員、元ノーサンブトン大学演劇科上級講師。昨年は『セキュリティー』のテキストやDVDが出版された他、インド古典舞踊の踊り手であり、コンテンポラリーダンスの振付家でもあるアッシュ・マクハージーとの共同制作企画『シェイクスピア、ボリウッドに行く』も手がけた。2010-11年度には、イタリア系アメリカ人の歌手マリオ・ランツァの生涯についてのワンマンショーの演出も予定されている。



ゼナ・エドワーズ

詩人、歌手、パフォーマー。

13歳から歌手・ミュージシャンとしてパフォーマンスをはじめ、ミドルセックス大学卒業後は詩人・舞台監督として活動。1998年にパフォーマンス・ポエトリーをはじめ、2002年からプロのパフォーマンス詩人として詩作ワークショップの指導などもはじめる。ゼナの活動はロンドン北部トッテナムで注目を集め、07年にアーツ・ファウンデーション・アワードをパフォーマンス・ポエトリー部門で受賞。「新世代」を代表する詩人の一人とされ、ヨーロッパやアフリカ各国に活動の幅を広げている。パフォーマンスではカリンバやコラなどアフリカ伝統楽器の生演奏から、サンプリングされた電子音源まで多彩な音楽が甘美な歌声と融合し、ゼナが編み出す言葉の世界に観客を誘っていく。近年の活動は非常に多岐にわたっている。ロイヤルフェスティバルホールでの公演、ロンドンジャズフェスティバルや、オランダ国際文芸祭、グラストンベリーなど国際フェスティバルへの出演、コヴェントガーデンにある「ザ・ポエトリー・カフェ」所属アーティストとしての活躍、BBCラジオ番組のプロデュース・出演やショートフィルムの製作、国内外でのワークショップ講師、また音楽CD「FUTURE SOUNDS OF JAZZ」シリーズには歌手、作曲家として参加している。

©Kofi Allen



©Jean-Louis Fernandez



©Jean-Louis Fernandez

ワジディ・ムアウッド

劇作家・演出家・俳優。

1968年、ベイルート(レバノン)生まれ。8歳で家族とともにフランスに亡命し、その後滞在許可証の更新が拒否されたため、83年にカナダ・ケベック州に移住。91年、カナダ国立演劇学校を卒業、劇団「テアトル・オ・バルルール」を創立。98年、ケベック演劇批評家連盟最優秀作品賞を受賞。2000年、『頼むから静かに死んでくれ』でカナダ総督文学賞(演劇部門)を受賞。00年から04年、モントリオール「三文劇場(Théâtre de Quat'Sous)」のディレクターをつとめる。この時期、セルバンテス『ドン・キホーテ』、ウェルシュ『トレインスポッティング』など様々な作品の翻案を上演。02年、フランス芸術文化勲章シュヴァリエを受勲。05年、モントリオール(カナダ)に劇団「アベ・カレ・セ・カレ」、フランスに劇団「オ・カレド・ロボテニューズ」を創立。同年、「劇作審査委員会」を設置しない劇場に対する抗議として、『頼むから静かに死んでくれ』に対するモリエール賞最優秀フランス語劇作家賞授与を拒否。07年、ルパージュやドゥニ・マルローの後をうけてオタワの「カナダ国立芸術センター・フランス語劇場」の芸術監督に就任。同時に10年までシャンベリー・サヴォワ国立舞台「エスパ・マルロー」(フランス)の提携アーティストともなっている。09年、「アカデミー・フランセーズ演劇大賞」を受賞、アヴィニオン演劇祭の提携アーティストとして四部作を上演。

代表作(ワジディ・ムアウッド作・演出作品)

- 1997 『頼むから静かに死んでくれ Littoral / Tideline』(『約束の血』四部作第一部、1999のアヴィニオン演劇祭で再演)
 - 1998 『トイレにこもったワイリー・プロタゴラス Willy Protagoras enfermé dans les toilettes』
 - 2000 『夢 Rêves / Dreams』
 - 2003 『火事 Incendies / Scorched』(四部作第二部、2009年10月に東京でピープルシアターが『焼け焦げるたましい』として上演、2010年にカナダで映画化予定)
 - 2006 『森 Forêt / Forests』(四部作第三部、シャンベリー)
 - 2008 『一人 Seuls』(アヴィニオン演劇祭)
 - 2009 『空 Ciel』(四部作完結編、アヴィニオン演劇祭)
- 他に演出家として『マクベス』、『オイディプス王』、『トロイアの女』、『ルル』、『作者を捜す六人の登場人物』、『三人姉妹』などを演出。

頼むから、この傑作を見逃さないでくれ!

目黒条

『頼むから静かに死んでくれ』の戯曲を貪るように一気に読みましたわたしは、「死体安置台の上で、ロートレアモンとソフォクレスが出会ったように美しい!」と叫びたくなった。

作者のワジディ・ムアウッドは、あのロベール・ルパージュらの後を継ぐようにして、カナダ演劇の最もイノベーティブな部分をリードする、劇作家・演出家・俳優だ。

私見だが、ヨーロッパや合衆国の芸術家に比べ、カナダの芸術家は、概してやや「屈折」しているのではないと思う。屈折というと失礼なようだが、言い換えれば、アイデンティティに関して峻厳な意識を持っている、ということだ。一方、同様に欧米のメインストリームから距離感がある国といっても、日本は敗戦後アイデンティティを見失い、テレビとエンターテインメントで骨抜きにされてしまった人々が多数派となった。そんな日本よりカナダは、文化的によほど豊かな可能性を持つ国なのではないだろうか。

ベイルート生まれで、フランスに亡命後、カナダに移住したというムアウッドは、まさしくアイデンティティについて自らに問い続ける芸術家なのだろう。

『頼むから…』は、骨抜きになっていない少数派のための、最高に刺激的な芝居だ。名前も知らない女性とセックスした夜、射精の瞬間にかかってきた電話で「父親の死」を知った主人公のウィルフリッドは、生と死のウロボロスに呑み込まれてしまう。ギリシア悲劇的な家族の葛藤から逃れるようにして、死体の(でも何故だか喋っている)お父さんを連れ『オズの魔法使い』さながらの彷徨を始める彼の、埋葬場所さがしの旅についてくるのは、彼の幻想の中の人物(アーサー王の騎士、ウィルフリッドの映画を撮影しているらしい監督やスタッフ)、そして父親オブセッションやトラウマを抱えた不思議な人々…。

昨年のアヴィニオン演劇祭で「アカデミー・フランセーズ演劇大賞」を受賞したこの傑作が、早くも日本で見られるなんて凄いことだ。演劇的事件ともいべきこの上演、絶対にこの目で目撃せねば!と今から興奮している。



目黒条 (めぐろ・じょう)

作家、翻訳家。翻訳戯曲に『ビューティー・クイーン・オブ・リナーン』『キャバレー』『ピロクシー・ブルース』など。マクドナー『ヒーローマン』の翻訳で、第12回湯浅芳子賞受賞。著書に『世界人類がセックスレスでありますように』『免罪符』など。

地元のお店でエネルギーを蓄え、 今日も稽古に励みます!!

一生懸命稽古をしたあとの食事、たまの休日は至福のとき。東の間のプライベートタイムをSPACの劇団員はどのように過ごしているのでしょうか。

彼らのエネルギーの源を調査しました! ここへ行けば、劇団員に会えるかも!? 気持ちも新たに、今日も稽古に熱が入ります。



市川一弥のおススメ
ライブバー **Freaky show**
TEL.054-273-8699

1 19時から翌朝5時まで営業。毎週水曜日は、静岡を代表する劇団、劇団渡辺と伽藍博物館がパフォーマンスを披露。気軽に演劇に触れられるお店、静岡にもあるんです!

仲谷智邦のおススメ
大衆酒場 **多可能**
TEL.054-251-0131

2 気骨溢れる親父さんが熱い大衆酒場! 街の真ん中で静岡の働くお父さんたちの胃と心を温めてくれます。実は、娘さんはSPACの舞台に出演していた女優さん! 静岡の夜は多可能で!

成島洋子のおススメ
ディエゴ
TEL.054-253-0808

3 ポテトがおいしい! 春芸'09では、姉妹店NAS'Hでリーディング・ナイトを開催しました。とっても盛り上がったのも店長の協力があってのこと。また何か一緒にできたらいいなあ。

伊藤尚子のおススメ
とんとん
TEL.054-243-6480

4 局長に連れられてよく行く中華屋さん。麻婆豆腐が絶品です! 一皿でもボリューム充分で大満足! 時々ムッシュに行きたくなるお店です! お腹がすいたらとんとんへ!

西川泰功のおススメ
伽藍博物館

5 静岡の人気劇団!! 主宰の佐藤さんは鷹匠演劇祭もコーディネイトする多彩な才能の持ち主で、静岡の代表的な演劇人です。惜しまれつつも、7月中旬に移転予定。(移転先未定)

植松舞のおススメ
伊太利亭
TEL.054-251-0456

6 毎月第2金曜といえば、「金曜プラス」。閉店後の店内がフリースペースとして開放され、色々な人たちが集まります。地産地消にこだわった料理が美味しい! お惣菜もおススメ!

丹治 陽のおススメ
らーめん 矢吹
TEL.054-255-3317

7 店構えも店内もオシャレで、女性も入りやすい。豚骨もしくは魚介豚骨がベースで味は醤油と塩の2種類。おすすめは「極み塩つけ麺」! 大盛り無料にスープ割もうれしい。

大内米治・智美夫妻のおススメ
焙煎堂
TEL.054-654-5152

8 焙りたてを100gから買える、自家焙煎のコーヒー豆屋さんです。起きてすぐや、稽古の休憩時間などに飲むと体が元気になります! 米治のおススメはコロンビア産のカチャル。

宮城 聡監督のおススメ
La Cave de NAGAFUSA
TEL.054-273-4750

9 静岡のフレンチを牽引してきた長房シェフによるプライベートレストラン。静かな住宅地にひっそりと佇む店構えにはシェフの人柄が表れています。

竹田 徹のおススメ
喫茶 OAK オーク
TEL.054-254-6723

10 老舗の喫茶店。地元の芸術家を応援するマスターと奥様の元には、昔からいろんな人が集まっています。カレーやコーヒーはもちろん、お冷(水)がなんと美味しいのです!

たきいみきのおススメ
駿府天然温泉 天神の湯
TEL.054-287-1126

11 温泉好きにはタマラナイ! 疲れた体を癒してくれる最高のスポットです。俳優の中にもファンが多く、よく遭遇します。けっこう恥ずかしいんですけど…。草薙の湯もおススメです。

名店MAP静岡駅周辺

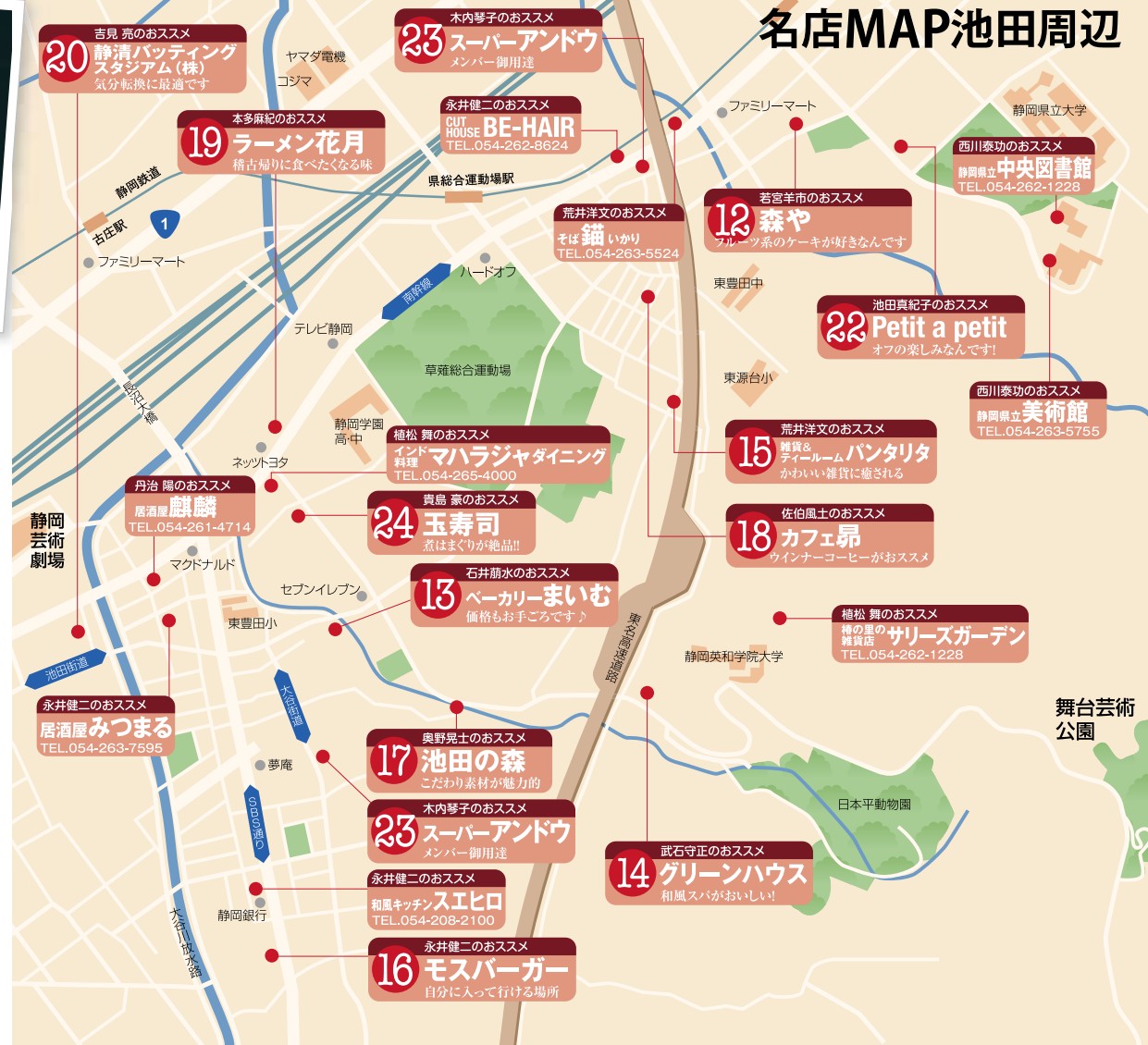


リラックス!
リフレッシュ!
素の自分で
いられる場所だよ

名店MAP池田周辺



「ベール・キュント」の稽古風景2/27suf.



若宮羊市のおススメ
森や
TEL.054-348-5352

12 カフェシンドレラのケーキは、ここで作っていただいています。木の温もりが感じられる店内では、食事からスイーツまで、バラエティーに富んだメニューが楽しめます。

石井萌水のおススメ
ベーカリー まいむ
TEL.054-265-2548

13 菓子パンから惣菜パンまで、発想が何と素晴らしいことか。定番の「なすみそ」をはじめ、四季折々の素材を生かしたパンは、カフェ・カチカチ山でも味わうことができます。

武石守正のおススメ
グリーンハウス・ハイネケン
TEL.054-264-0131

14 お母さんのやさしい笑顔がお出迎え。ホッと一息つけるレストランです。メニューが豊富なので、気軽に人を誘えるのも魅力的。ステキな井はボリューム満点でお勧めです!

荒井洋文のおススメ
雑貨&ティールーム パンタリタ
TEL.054-262-1789

15 緑の庭と欧風の建物が目印。思わず手に取りたくなる雑貨、古道具が所狭しと並び、つい長居してしまいます。さつくりとしたスコーンは絶品。ほけっとした午後には最高です。

永井健二のおススメ
モスバーガー 静岡小鹿店
TEL.054-267-6111

16 考えごとをしたい時には、ここへ。もちろん、モスの商品も大好きです。モスチキンよく食べます。コーヒー味のモスシェイクもおススメです。

奥野晃士のおススメ
池田の森ベーカリーカフェ
TEL.054-262-5580

17 オーナーさんこだわりの焼きたてパンをその場で食べられるカフェは、エコ団地に隣接する山小屋のような癒しの空間。稽古の前も天然酵母くるみパンでパワーチャージ! ランチもおススメ。

佐伯風土のおススメ
カフェ 昴
TEL.054-264-7728

18 小高い一角に佇む喫茶店。朗らかなお母さんと、白い歯がステキなお兄さんが出迎える。焼チーズケーキがおいしいお店。隣接する茶畑を見渡しながらたまの休日をご過ごしています。

本多麻紀のおススメ
にんにくげんこつ ラーメン花月 東静岡店
TEL.054-265-6655

19 ずっと醤油豚骨派でしたが、石井さんに勧められて以来塩豚骨にもはまっています。私は肉が苦手なのでチャーシューは抜きで。トッピングのおススメはもやしです! 壺ニラもりもりどうぞ。

吉見 亮のおススメ
静清バッティングスタジアム(株)
TEL.054-286-1611

20 バットに球をあてることに集中すると、細かい悩みは吹っ飛びます。アドレナリン噴出で脳ミソ、スッキリ、キン肉ハッピー! ちなみに、球はあまり前に飛びません。

館野百代のおススメ
和創作料理 花咲
TEL.054-348-8730

21 草薙で暮らしていた頃に通い始めたお店です。今でもマイ箸、マイコースター、マイグラス、マイカップが置いてあって、料理長には色々とお話を聞いてもらっています。

池田真紀子のおススメ
petit a petit プティタプティ
TEL.054-208-3331

22 美術館そばのオシャレなパン屋さん。おすすめは「キュービック」。焼かなくてもおいしい、耳までおいしい。他の食パンでは満足できません。フォカッチャもカヌレもどれも美しい作品!

木内琴子のおススメ
スーパーアンドウ 池田店
TEL.054-261-9044
TEL.054-263-7311

23 SPACのみんながお世話になっています。よく行くのは芸術劇場に近い池田店。夜遅くまで生花が買えるのがこのいいところ。こういうお店ってなかなかないですね。

真島 豪のおススメ
玉寿司 聖一色店
TEL.054-262-0880

24 とびきり美味しいお寿司屋さん。SPACを訪れる海外のアーティストが、とても喜ぶお店です。新鮮なネタを前に素敵な時間が過ごせる、一度は行ってほしい静岡の名店です。

名店MAP草薙駅周辺



三島景太のおススメ
オルタナティブスペース スノドカフェ
文化人の注目スポット!

気がつくとも足が向かってる。でも、足を向けちゃ寝られね〜パワースポット

コメディア・デラルテvs天狗! ん?!

アルルカン、天狗に出会う

～(H)arlequin/Tengu～

(H)arlequin/Tengu

作・出演：ディディエ・ガラス Written and performed by Didier Galas

執筆協力・翻訳・字幕制作：大浦康介 Cowritten, translated and subtitles by Yasusuke Oura

6月20日[日] 11時、19時開演 20 June at 11:00 and 19:00

舞台芸術公園 屋内ホール「楯岡堂」 Ellipse Theatre DAENDO, Shizuoka Performing Arts Park

上演時間：60分 Duration: 60 minutes

■ 4,000円/同伴チケット(2枚)7,000円/大学生・専門学校生2,000円/高校生以下1,000円

コメディア・デラルテの人気者アルルカンの正体は魔物!?

天狗がフランス人に憑依する驚愕のパフォーマンス!

イタリアの喜劇コメディア・デラルテの代表的な登場人物アルルカン(アルレッキーノ)。今は道化として知られていますが、もともとの姿は魔物。アルルカンの本当の姿を探し求めて、ディディエ・ガラスは「バベル・アルルカン」というプロジェクトを立ち上げました。世界各地に伝わる魔物的な登場人物を自ら演じ、アルルカンに出会わせます。ディディエ・ガラスはフランス人ですが、コメディア・デラルテの名手。天狗を演じるにあたって日本に滞在し、能の師匠のもとで鍛錬を重ねました。フランス人の口から中世日本語が飛び出すこの作品に立ち会えば、言葉も人種も越えて身体表現が立ちあがるスリルを体験することになるでしょう。バベルの塔、崩壊前夜へ! ガラスのパフォーマンスは私たちに誘います。

東京公演：6月4日[金] 5日[土] 19時開演 会場：鏡仙会能楽研修所

お問い合わせ：東京日仏学院 TEL.03-5206-2500

京都公演：6月13日[日] 16時開演 14日[月] 19時30分開演 会場：アトリエ劇研

お問い合わせ：アトリエ劇研 TEL.075-791-1966

あらすじ

コメディア・デラルテの俳優が仮面をつけて舞台上で登場し、いつものアルルカンを演じようとする。だが、アルルカンの本来の姿は一種の魔物であり、やがてこの魔物が俳優に憑依して、自らを滑稽な道化へと貶めていった俳優たちに怒りをぶちまけていく。魔物は中国の鍾馗など、世界中の伝統のなかで生きてきた他の魔物たちとの出会いを語る。やがて日本の魔物である天狗が憑依し、中世の日本語で語り出す……。

【バベル・アルルカンとは】

この作品は2001年に始まった「バベル・アルルカン」というディディエ・ガラスの壮大なプロジェクトの一環です。一人芝居「アルルカン」のさまざまなバージョンをさまざまな国で製作し、その国の神話的で悪魔的な人物を、やはりディディエ・ガラスが、その国の言語で演じています。プロジェクトの日本版『アルルカン、天狗に出会う～(H)arlequin/Tengu～』は、彼が金剛流の宇高通成のもとで演技術を学んだ1998年のヴィラ九条山での滞在の成果でもあります。

協賛：キュルチュールフランス



後援：東京日仏学院



、フランス大使館



©M.Constantini



ディディエ・ガラス

俳優、演出家。

パリ国立演劇学校(コンセルヴァトワール)でクロード・レジラに師事したのち、レジ、ジャック・リヴェット、リュドヴィック・ラガルドらの作品で俳優として活躍。クリスチャン・シアレットと共同で製作した『繊細なるアハメッド』(アラン・バディウ作、1995)でモリエール賞最優秀俳優賞にノミネート。1998年、京都のヴィラ九条山に滞在し、金剛流の宇高通成に師事して能を学ぶ。99年には北京で中国京劇院の名優李光に師事。2000年、「モネー・ド・サンジュ(猿のお金)」で狂言大蔵流の松本薫(太郎冠者役)、中国京劇院の董志華(孫悟空役)とともにアルルカンを演じ、アヴィニオン演劇祭、アルマグロ演劇祭(スペイン)などに参加、アルマダ演劇祭(ポルトガル)で大賞を受賞。その他、ラプレー、セルバンテス、ゴンブローヴィッチなどの作品を一人芝居の形式で演じている。10年からプルトーニョ国立劇場の提携アーティスト。

仮面一過去世への扉

宇高通成

もうすでに数年も前になるが、フランスから、ディディエ・ガラスと言う名の仮面劇の演者が私の所に来た。彼は革で作られた、王や王女、王子や召使い、はたまた乞食の仮面を交互に着け、様々な役を即座に演じて見せた。すぐ目の前に座っていた私は、威厳に満ちた仮面から繰り出される言葉や、大きなしぐさに、石のように硬く縮まってしまった。また、哀れな老人に変わると、心の中から救いの手が出そうになった。彼の劇中に知らず知らずの内に入り込んでいた私は、ふと、能で味わう何か、心騒ぐ想いを感じ取った。それは、仮面でしか表現出来ない希有な現象であると同時に、長い間、この特殊な現象について真面目に問うて来た。その問いはこうである。いったい仮面は、なぜ人の心の底まで入り込んで、様々な感動を与えるのだろうか。それは幾度となく繰り返されて来た、人生という輪廻転生の中で、恐れ、敬い、驚き、悲しみ等と言った、喜怒哀楽の感情が、我々の心の中に蓄積され、様々な心の揺さ振りを引き起こすのではないか。いわば仮面は、我々の感情の縮図とも言える。そう言った深い意識の底に沈んでいる過去の思い出と、仮面が一致する時に、特別な感動を生むのではなからうか。日本に於ける仮面の代表は、おのずと能面にたどり着く。しかしながら、能面は日本のオリジナルではなく、インド、中国、韓国から伝承された、宗教的要素を含んだ、仮面群の到達点が能面の原点であり、能という魂救済の仮面劇が、より熟成を加えて、今の能面が出来上がった。今や、能楽は日本だけのものではなくなりつつある。能の表現のメソッドを学ぶ、多くの外国人の中で、ディディエ氏のように、目線の使い方、面の傾斜によって生み出される、能的な表現の世界は、無尽に広がるに違いない。益々の熟成を加える彼の仮面劇は、甚だ脅威であり、楽しみでもある。ただ、私にフランス語の理解力が無い事は、実に情けない事である。

宇高通成 (うだか・みちしげ)

シテ方金剛流能楽師。

重要無形文化財総合指定保持者。五流を代表する演者の一人で、唯一の能面作家でもある。『翁』『道成寺』『卒都婆小町』『鸚鵡小町』などを披き、新作品の制作も手掛ける。『子規』『原子雲(祈り)』『龍馬』演能。)景雲会・面乃会・INI(国際能楽研究会)を主宰し、幅広く活動。2007年、文化庁国際芸術交流支援事業の一環として、欧州にて公演。



演劇/ブラジル Theatre/Brazil

ポルトガル語上演・日本語字幕
In Portuguese with Japanese subtitles

恋の終り
世界は
終わる

初来日から2年、あの衝撃をもう一度!

リオ・デ・ジャネイロ つかの間の愛

The other, (if for a moment)

コンセプト・演出：エンリケ・ディアス Concept and direction by Enrique Diaz

共同演出：クリスティーナ・モウラ Codirection by Cristina Moura

出演：コレティヴォ・インプロヴィゾ Performer by Coletivo Improviso

6月26日[土] 14時30分開演 27日[日] 16時開演 26 June at 14:30 and 27 June at 16:00

静岡芸術劇場 Shizuoka Arts Theatre

上演時間：75分 Duration: 75 minutes

■ 4,000円/同伴チケット(2枚) 7,000円/大学生・専門学校生 2,000円/高校生以下 1,000円

★静岡県内の中学生は、30名までご招待あり。(お問い合わせ、お申し込みはSPACチケットセンターまで)

リオのアーティストが見つけた、スリリングな演劇のカタチ!

2008年静岡を熱狂させたエンリケ・ディアスの新たな挑戦!

「Shizuoka春の芸術祭2008」で『かもめ…ブレイ』を上演し、絶賛されたエンリケ・ディアス演出の最新作。俳優、ダンサー、ミュージシャン……ジャンルを越えたアーティスト集団コレティヴォ・インプロヴィゾの必見パフォーマンス。ドキュメンタリー精神で見つめたリオ・デ・ジャネイロの情景を手がかりに、ぬくぬくした生活と剥き出しのカーニバルが交差する、沸血絶倒スマート・シアター! ディアスと共同演出するのは振付家のクリスティーナ・モウラ。『かもめ…ブレイ』の所作指導も手がけた彼女は自身パフォーマーでもある多彩な才能の持ち主。黄金コンビが装いを新たに再登場です。おそろしく知的でそれでいて愉快、とびきりおちゃめなりオからの来客に会いに行こう!



エンリケ・ディアス

演出家・俳優。

1967年、リマ(ペルー)に生まれる。16歳の時にリオ・デ・ジャネイロで「コンパニー・ドス・アトレス(俳優のカンパニー)」を友人たちと共に設立。90年代初頭、ボルヘスとマラルメに着想を得た『ア・パオ・ア・クー』によって注目される。コンパニー・ドス・アトレスは俳優の演技を中心にしたカンパニーで、テキストは踏み台に過ぎず、ディアス自身を含めた俳優たちの共同作業によって作品を構成していく。

88年から、ディアスは同時に即興とジャンル横断性を特徴とするコレティヴォ・インプロヴィゾのディレクターを務めている。この劇団はエンリケ・ディアスとマリアナ・リマの演出作品に参加したパフォーマーたちの出会いによって生まれた。この14人のダンサー・俳優・ミュージシャンたちは、与えられたテーマに従ってオーダーメイドでパフォーマンスを作り上げていく。



クリスティーナ・モウラ

振付家、演出家、パフォーマー。

1969年リオ・デ・ジャネイロ生まれ。クラシック・バレエを学び、ブラジリアのダンス・グループ「エンダンカ(Endanca)」に10年間参加した。96年から2003年までヨーロッパに滞在し、スペイン、フランス、ベルギーのダンス・カンパニーで研鑽を積んだ。自らクリエイションをはじめたのは98年。03年に初演された彼女のソロ作品『白痴のように(Like an idiot)』はヨーロッパ各国はじめ、アメリカ、ブラジルで100回以上上演されている。03年から創作と生活の拠点をリオ・デ・ジャネイロに移し、04年よりコレティヴォ・インプロヴィゾのメンバーとなる。近年、ダンスと演劇の両方にまたがる活動を続け、エンリケ・ディアスと共同制作している。「Shizuoka春の芸術祭2008」で上演されたディアス演出『かもめ…ブレイ』でも所作指導を担当した。そのほか、女優マル・ガッリの共同演出やソロ作品等、多彩な活動を展開している。

後援：ブラジル大使館  EMBAIXADA DO BRASIL



エンリケ・ディアスの演劇の好きどころ

岡田利規

エンリケ・ディアスの作品は、チャーホフの原作にもとづいて作られた『かもめ・・・プレイ』をわたしは見ています、というか、それしか見ていないのですが。これは、2008年の春に静岡でも上演されたものですね、僕はそのときも見ましたが、その一年前にブリュッセルでも見ていました。彼らも、そしてわたしたちも、かの地で開催されていたフェスティバルの、ともに参加者だったのです。舞台上で話されるのは主にポルトガル語だし、字幕はフラマン語とフランス語で、つまり(などとあらためて断ることもないでしょうが)わたしにとっては言葉の面ではまるきりちんぷんかんぷんだったのですが、にもかかわらず、たいへんに感銘を受けました。

よく知られた古典作品を原作としていたおかげで、「ここは世界靈魂とやらが出てくる例の劇中劇のシーンだな、ヘリコプターのラジコンを使った演出、おもしろいなあ」とか「ここはラストの、トレープレフが自殺するところか。ドライバーを銃に見立てて頭に向けてたかと思いきや、床に転がっていたトマトを踏みつぶしてそれを表現するなんて、憎らしいほどのセンスだな」とかということが理解できたのも大きかったのですが、しかしとにかく、役者に見ごたえがあった。色気があるのです。そのことを、そりゃあ彼らは「ラテン」なのだから当然だろう、と思っただけでいけません。役者にとって色気というのは、半ば以上技術の問題です。だから正直、ここだけの話、ラテンの役者だろうがどこの役者だろうが、色気というのは(つまり、技術というのは)、ある人にはあるし、ない人にはないのです。そしてエンリケ・ディアスのカンパニーの役者には、これはもう間違いなく、色気があります。

そしてエンリケ・ディアスの演出は、実に要領を得た、抑制の利いたものです。華美なことにはしません。でもその簡潔さは、わたしたち観客に、役者の色気を心ゆくまで味わわせてくれます。

岡田利規 (おかだ・としき)

演劇作家、小説家、チェルフィッチュ主宰。
05年『三月の5日間』で第49回岸田戯曲賞を受賞。08年デビュー小説集『わたしたちに許された特別な時間の終わり』で第二回大江健三郎賞受賞。09年10月HAU劇場(ベルリン)にて『ホットペッパー、クーラー、そしてお別れの挨拶』を発表。



「雑踏=人の気配」が街をつくる！ 南十字 ✨ 路

Je.ja.l.an

演出・振付：ユディ・タジュディン Directed and Choreographed by Yudi Ahmad Tajudin

装置デザイン：メッラ・ジャールスマ Installation Art Images by Mella Jaarsma

音楽：リスキー・サマービー・アンド・ザ・ハニーシーフ Music by Risky Summerbee and The Honeythief

照明デザイン：イグナティウス・スジアルト Lighting by Ignatius Sugiarto

出演：テアトル・ガラシ Performed by Teater Garasi

6月25日[金] 27日[日] 19時30分開演 25 and 27 June at 19:30

静岡芸術劇場内カフェ「シンデレラ」 Café Cinderella in Shizuoka Arts Theatre

上演時間：60分 Duration: 60 minutes

■ 4,000円/同伴チケット(2枚)7,000円/大学生・専門学校生2,000円/高校生以下1,000円

規格外の上演でおくる、とことん狂った一夜！ 東南アジアの喧騒がカフェ「シンデレラ」を支配する！

インドネシアの先端的パフォーマンス・グループ「テアトル・ガラシ」。その本拠地ジョグジャカルタのような街の夜が静岡芸術劇場内カフェ「シンデレラ」に現れます。一見パーティのようにはじまるこのパフォーマンスに、参加者は戸惑うかもしれません。会場のあちこちにパフォーマーが点在し、猥雑な空気が漂うなか、私たちは、何がはじまるの!?と期待と不安を抱くでしょう。やがていつの間にかステージができ、パフォーマーが踊り出て、観客は未知の領域へ連れ去られ……すっかりこの魅惑的な一夜に没頭してしまうことでしょう。人肌と夜風で生ぬるい、街のあちこちで今日も人と人が衝突し、争い、そして愛し合う……そんな東南アジア特有の人間臭い街の気配が、洗練された身体表現で、驚くほどスタイリッシュに、それでいてノイズたっぷりに立ちのぼる! 今宵、狂った街の気配に、震撼すること請け合いです!

【作品介绍】

原題の“Je.ja.l.an”はインドネシア語で「混雑した道」を意味します。この作品はインドネシアの大都会に潜むありとあらゆる人間の二面性が詰まった舞踊劇です。現代性と伝統、コスモポリタンと閉塞的な人々、エリートと平凡な大衆、勝ち組と負け組、などなど大都会にうずまく衝突や論争が、この作品を通して浮き彫りになります。この作品は、俳優達が実際に街に出て、人々の毎日の生活を直接観察・調査して創作されました。振付家も兼ねる演出家のユディ・タジュディンは、現代社会におけるその生き方の複雑さを表現するために、日々の暮らしを、多くの語りと同時に展開する動き、重なり合う場面や、時にアンバランスで滑稽な描写からなる一つの舞台作品に仕上げました。

協賛：ガルーダ・インドネシア航空会社 Garuda Indonesia

後援：インドネシア大使館



©Mohammad Amin



ユディ・タジュディン

演出家。

インドネシア屈指の実験的劇団テアトル・ガラシの創立者の一人で芸術監督。1993年に創設されて以来、テアトル・ガラシのほとんどの作品を演出。2000年、10月～12月には、国際交流基金の企画で、アジア舞台芸術家交流・研修事業として、坂手洋二演出の日本インドネシア共同制作現代演劇「南洋くじら部隊」に参加した。06年、テアトル・ガラシとク・ナウカシアターカンパニーとの共同制作作品「ムネモシユネの贈りもの」を演出。同じ年に、インドネシアの著名な詩人クナワン・モハマドによって書かれた台本をもとに、インドネシアを代表する現代音楽家トニー・ブラボウによって作曲されたオペラ「王様の魔女」を演出した。



テアトル・ガラシ

テアトル・ガラシは1993年に設立され、インドネシアのジョグジャカルタ市を拠点とした様々な分野のアーティストの共同体で、実験的な現代演劇の創造の場である。設立当初より、テアトル・ガラシはインドネシアの演劇界において最先端にあり、既存の舞台芸術の伝統的な様式をはじめ、その伝統的な様式と現代的な感性、手法や描写表現との融合を探ることにより、斬新で純粋な真の舞台芸術を発展させるという理念をもとに活動し、その精力的な取り組みは広く知られている。近年、2004年のシンガポール公演、05年のベルリン公演、東京公演等、国際的に活動の幅を広げている。

心の原風景、インドネシアの大地

おおたか静流

1992年に発表したCDアルバム「Repeat performance」で『ブンガワン・ソロ』を歌った時が、私とインドネシアとの出会いだっただ。古い流行歌を再生するというコンセプトで、何百もの歌の中から選んだのが、この歌だった。

1994年、「Tokyo Gracious Beat」というイベントでジャカルタに招かれ、現地語で『ブンガワン・ソロ』を歌った時は、熱いものがこみあげた。ひとつの歌で、異国の心と心が通う不思議。同じ時期にバリにも渡る。そこではガムランとケチャに会い、「地上で最後の楽園」という感覚を肌に刻んだ。

日本国内でも、ガムランを堪能している。皆川厚一さんとのセッションはいつも感動的だ。繊細且つアグレッシブ、粘着質でとろける様な音の連打に、知らず時間を忘れる。きっと彼の体の中には、インドネシアの時間が流れているのだ。私はその時間の川に身をゆだねればよい。

以前手がけた映画「鉄塔武蔵野線」の主題歌は、インドネシアの田園風景と重ね合わせた『Saja Dream/サヤドリーム』だ。迷子になって途方にくれた、草の匂いと夕焼けの中……何かにすがるように走りに走った川べり……不思議なほど、私の原風景である武蔵野は何故かインドネシアなのだ。

“南十字☆路”では、その原風景の＜現在＞がどう表現されているのだろう。

数日前、皆川厚一さんから彼のアルバムが届いた。現地録音だという。どんな凄いガムランとケチャだろう……と思いきや、聞こえてきたのは、波の音と蛙の合唱と笛の音……啞然とし、言葉をなくし、やがて涙が止まらなくなった。故郷は自分の大地の言葉で話しかけてきた。



おおたか静流 (おおたか・しずる)

ミュージシャン・ヴォイスアーティスト。

7歳よりクラシック音楽を習う。オリジナルアルバムを21枚リリース、数百曲に及ぶTVCMでの歌唱や映像、絵画、朗読、ダンスとのコラボレーション等、ジャンルや国境を越えた音楽活動を展開。即興のワークショップ「声のお絵描き」を主宰。NHK教育TV「にほんごであそぼ」の音楽と歌唱を担当。

人形に魂を吹き込む男!

毛皮のマリー

La Marie Vision

演出・美術・人形操演：平常 たいらじょう Directed and performed by Jo Taira

原作：寺山修司 Original text by Shuji Terayama

監修：森崎偏陸 Supervised by Henrix Morisaki

演出補：輪嶋東太郎 Assistant Director by Totaro Wajima

7月3日[土] 16時開演 3 July at 16:00

静岡芸術劇場 Shizuoka Arts Theatre

上演時間：110分 Duration: 110 minutes

■ 4,000円/同伴チケット(2枚)7,000円/大学生・専門学校生2,000円/高校生以下1,000円

R-15 15歳以上のお客様よりご入場いただけます。

放心必至! 寺山の代表作をニッポンの若き異才が人形劇に!

平常は日本の人形劇界を牽引するホープ。幼少の頃に人形劇に興味を持って以来、数々の人形劇をつくりあげてきました。全てをひとりで行う独自のスタイルで話題を集め、こどもからおとなまでファンが増え続けています。今回上演する『毛皮のマリー』は大人テイストの人形劇! 寺山修司の言葉をト書きまで語りながら、全身で人形を操り演じ、縦横無尽に舞台を駆け巡ります。彼の手にかかると人形たちは命を吹き込まれ、みるみる表情豊かに…。

おそるべき人形劇! ついにSPACへやってきました!

あらすじ

男娼のマリーに過保護に育てられた欣也は外の世界を全く知らず、豪華絢爛な応接間を大草原のように虫取り網片手に走りまわる始末。そこへ絶世の美少女があらわれ、彼を未知の世界へと誘うのだが…



平常 (たいらじょう)

人形劇俳優。

1981年10月28日生まれ。北海道札幌市出身。

12歳のときに、ひとり人形劇『どんぐりと山猫』(宮沢賢治原作)で札幌の人形劇界にデビュー。以後、人形劇のほかにも、日本舞踊・人形浄瑠璃などの伝統芸能、パントマイム、ダンスなど、様々なジャンルの演劇公演に参加。札幌人形劇祭では94年度市長表彰奨励賞、96年度市長表彰優秀賞、98年度演出賞を始めとする数多くの賞を受賞。19歳のときに拠点を東京に移しジョウズグループ(たいらじょう人形劇事務所)を設立。演出、美術、構成、操演にいたる全てをひとりで独自のスタイルで本格的なプロ活動を開始。以後、大人のためのR-15人形劇から赤ちゃんのための人形劇まで、多彩な演目を国内外にて上演すると同時に、多数の講演活動や演技指導を各地で行う。2004年には、大人の観客限定で上演した『毛皮のマリー』(寺山修司原作)が日本人形劇大賞に於いて史上最年少で銀賞を受賞。その後も『天守物語』(泉鏡花原作)、『星の王子さま』(サン＝テグジュベリ原作)、『宮沢賢治の世界』、『子どものためのオリジナル作品(多数)』など、次々に新作を発表し全国を巡回。また海外では07年、『サロメ』等の上演で初のヨーロッパ公演を成功させ、08年には米シアトルからの招聘を受けての巡回公演を実施、現地の観客を熱狂させた。人形劇を「年齢を問わない全ての人の文化に」というその活動が、テレビ(TBS・筑紫哲也NEWS23、NHK、他)、新聞・雑誌などのメディアでも度々取り上げられ、「人形劇の概念を覆す鬼才」として大きな話題を集めている。

公式ホームページURL <http://tairajo.com>

韓国の文化ゲリラが挑む壮大な歴史絵巻!

太陽の帝国

Empire of the Sun

台本・演出：イ・ユンテク Written and directed by Lee Youn Taek

原作：チェ・イノ『第4の帝国』 Original text by Choi In Ho

出演：演劇団コリペ Performed by Street Theatre Troupe

7月3日[土] 19時30分開演 3 July at 19:30

舞台芸術公園 野外劇場「有度」 Open Air Theatre UDO, Shizuoka Performing Arts Park

上演時間：100分 Duration: 100 minutes

■ 4,000円/同伴チケット(2枚)7,000円/大学生・専門学校生2,000円/高校生以下1,000円

※背もたれのない客席になります。※雨天時でも上演いたします。

「演劇団コリペ」による
パレード開催決定!

7月4日[日] 16時~17時

SPACの路上パフォーマンスでもおなじみの、
伝馬町けやき通り109前スタート!
イ・ユンテク氏率いる「演劇団コリペ」が
舞台を飛び出し静岡の街へ繰り出します!
静岡の人々を巻き込んで、
パフォーマンスを繰り交ぜ
市内を練り歩く1時間。
春の芸術祭2010を締めくく、
この行列をぜひご覧あれ!

古代日本を舞台に、韓国の巨匠がつくりあげる壮大なドラマ!
野外劇場で繰り広げられる総勢50名の群像劇!

イ・ユンテクはSPACとも縁の深い韓国の演出家。今年の1月には『ロビンソンとクルーソー』をSPACと韓国は釜山市で上演し、熱狂的な支持をうけました。はやくも7月、新作をひっさげでの登場です! 日本と朝鮮半島の関係に意欲的に取り組んできたこの巨匠が新作にとりあげるのは、紀元400年の渡来人の物語です。今回なんと総勢約50名の俳優・スタッフたちが来日し、野外劇場の幻想的な空間を埋め尽くしておくる壮大な歴史絵巻です。

この物語のテーマは「征服ではなく定着、支配ではなく共存」。類稀な想像力で、歴史のブラックボックスから新たな神話をユンテクが創り出します。

あらすじ

紀元400年。高句麗の広開土大王は伽耶の従拔城を攻撃する。5万の大軍に攻められた従拔城は陥落し、伽耶の王家は降伏する。しかし、騎馬武人で鍛冶屋のセプルカン、陶工のノマ、そしてもともと倭人であったが学問のために伽耶に滞在しているスザンは降伏を拒否し、海を渡ることを決意する。セプルカン一行が到着した地は、現在の九州、筑紫であった。日本にたどり着き、渡来人となったセプルカンたちは、いったん天照3世の奴隷となるが…



イ・ユンテク

詩人、劇作家、演出家、シナリオ作家、映画監督など様々な芸術領域を貫く芸術家。釜山において旗揚げした劇団「演劇団コリペ」を韓国最高峰の劇団にまで発展させ、「文化のゲリラ」というニックネームも付けられている。2004年には韓国国立劇場国立劇団の芸術監督を務め、韓国の大学をはじめ世界各地において独自の演技訓練メソッドを教えている。現在は韓国の密陽において演劇村を造り、団員達と合宿生活をしながら活発な創作活動を続けている。

後援：駐日韓国大使館 韓国文化院



わにこです。

平常さん(ジョウくん)との最初の出会いは、2003年長野県飯田市での「春休み人形劇まつり」にお互い出演した時でした。

その後もマイペースの私とは打って変わって彼は持てる才能をフルに活かして今や人形劇界のトップへと登り詰めました。

にもかかわらず、「わにこさ〜ん」と声をかけてくれます。彼のそんな気さくなところが大好きです。

平常の人形劇は小さい子から大人まで幅広い層からの支持を受けています。

今回上演される『毛皮のマリー』は大人向けの人形劇、おそらく彼の作品の中でも最高峰のものと確信しています。

自分で人形劇を作って演じるだけでなく観るのも好きな私にとって今から楽しみです!

丹羽ちえこ (にわ・ちえこ)

人形劇団「わにこ」主宰。静岡を中心に全国各地で活動している。4〜5歳児用人形劇の他に、0〜2歳児用の人形劇にも力を入れている。将来の夢は、車に人形劇道具を積み込んで山間の村や離島で人形劇をやって次の村までの生活資金をいただいて、日本中どこまで行けるか試すこと!





良きライバルとして高めあう日韓のアーティストたち

黒田福美

韓国は「アジアのイタリアだ」と言われる。半島気質というのだろうか人々は開放的で陽気。酒を飲めば誰でもが朗々と歌を歌いすぐさま踊り出す。家族を大切に、男性は臆面もなく女性を口説くところも似ている。

そんな性質は「表現すること・芸術」への情熱につながり、また物見高く「良い観衆」をも育てたように思う。

小劇場の集まる東崇洞では劇場が至るところにある。観客の層が厚く、学生から年配の人までが日常的に演劇を楽しんでいる。芝居のはねる時間になるとあちこちの劇場から人々がどっと繰り出し、ざわめきながら飲食店街へと流れて行く。演劇人が主な観客を占める日本の小劇場事情とはずいぶん違っていると羨ましく思ったものだ。同時に、韓国人の見識の高さにも感心した。

そのうち小劇場から育った優れた俳優たちは映画俳優としても活躍するようになる。「ミュージカルはちょっとね」などと言う日本人をよそ目に、オペラやミュージカルがヒットし、ロングランが相次ぐ。経済成長とともに世界を舞台にした芸術家がどんどん輩出されていった。

表現すること、ことに声を出すこと、歌うことに長けた韓国人と日本人とを比べると、なにか民族的に身体構造の違いがあるのではないかと思ったことがあった。

そこで私は東京大学名誉教授、自然人類学者の故・埴原和郎先生に日本人と韓国人の民族的な違いについて尋ねてみた。

すると先生の答えは意外にも「人類学の立場からみれば日本人・韓国人・中国人は人種としての違いはほとんどないといってよい。ただ文化的な相違がそれぞれの違いを生む」というものであった。

日本人と韓国人は似ているけれど、どこかがちょっと違う。私たちがお互いを引きつけ合う要因はそんなところにあるのかもしれない。

私は常々思うのだ。あまりに異なった者同士では茫漠として比べようもない。けれど基本的には類似した民族であるからこそ、そこにある違いを神秘的で魅力的だと感じあい、惹かれあうのだと。

昨今、日韓の文化交流は大変盛んになってきた。「相互理解」という点でも有効なことだが、それ以上にアーティスト同士がお互いの魅力を研究し、高めあい、切磋琢磨してゆく機会としても大切な場になっていくにちがいない。

黒田福美(くろだ・ふくみ)

俳優・エッセイスト。

東京都出身。映画・テレビドラマなどで活躍する一方、芸能界きっての韓国通として知られ、テレビコメンテーターや日韓関連のイベントにも数多く出演、講演活動なども活発におこなっている。著書に『ソウルマイハート』『ソウルの達人 最新版』(講談社)などがある。

黒田福美ブログ <http://ameblo.jp/kuroda-fukumi/>



世界が熱狂した新しい中国!

BeSeTo演劇祭参加作品

霸王歌行-項羽、歌の翼にのる

The ballad of the supreme King

演出：王晓鷹 Directed by Wang Xiaoying

作：潘軍 Written by Pan Jun

出演：中国国家話劇院 Performed by The National Theatre of China

7月3日[土] 12時30分開演 4日[日] 13時30分開演 3 July at 12:30 and 4 July at 13:30

舞台芸術公園 稽古場棟「BOXシアター」 BOX Theatre, Shizuoka Performing Arts Park

上演時間：110分 Duration: 110 minutes

■ 4,000円/同伴チケット(2枚)7,000円/大学生・専門学校生2,000円/高校生以下1,000円

※背もたれのない客席になります。

項羽のすさまじい一生を限りなく美しく…

1人13役!?!の驚異的な演技は必見!

歴史好きが愛してやまない項羽の物語を、現代中国の演劇人がこれ以上ないほどドラマティックに蘇らせました! 中国の古楽器・古琴の演奏ではじまるこの作品は、中国らしい情緒を全編に漂わせながらも、現代的な舞台美術や仕掛けによって、鮮烈な印象を観客の脳裏に刻むことになるでしょう。演じるのは中国国家話劇院の脂ののった俳優たち。1人の俳優が演じきる項羽を中心に、そのまわりで1人13役を演じる俳優によって、多彩で劇的な世界が展開します。「時代もののテレビドラマじゃ物足りない!」という方にも、「歴史なんて興味ないけど…」という方にも、一度見れば目が離せない! そんな演劇のスリルが間違いなく体感できるでしょう。このあまりに劇的な新しい中国の演劇をお見逃しなく…

BeSeTo演劇祭とは?

Beijing(北京)、Seoul(ソウル)、Tokyo(東京)の頭文字をとって命名されたBeSeTo演劇祭は、中国・韓国・日本、3カ国共同の国際演劇祭。今年で17回目をむかえ、東京、鳥取、静岡を会場に、日中韓3カ国語版作品を含む10団体40公演を予定している。

あらすじ

約2200年前、楚王項羽と、漢王劉邦が覇権を争っていた。項羽と劉邦、そして項羽の最愛の女性・虞姫。彼らの愛と裏切りのなかで、ひととき理想に燃える項羽の選んだ道とは…



王晓鷹 Wang Xiaoying

演出家。

1984年、北京市にある国立大学中央戯劇学院の演出学科を修了し、その後、徐晓钟(Xu Xiaozhong)教授の指導の元、95年に演劇学(演出学)の博士号を取得。中国国家話劇院副会長、中国劇作家協会副主席。また、中央戯劇学院大学で客員教授として教鞭を執り、学術委員会委員を務める。



潘軍 Pan Jun

シナリオライター 脚本家。

安徽大学中国文学学科を修了。安徽省立文化芸術学院の専属作家で、安徽大学の客員教授も務める。



血の赤、遠い過去と私をつなぐもの

中島諒人

この作品の演出家である王さんとは、07年12月に知り合った。日本、中国、韓国の演劇祭、BeSeTo演劇祭の日本開催の年で、魯迅の短編小説をもとに私が演出した『剣を鍛える話』を、ずいぶん気に入ってくださった。北京の国家話劇院で上演をという提案もしてくれた。それがきっかけで私も王さんの作品を知るようになった。

王さんは、中国における西洋演劇の第一の紹介者である。そして同時に中国演劇の伝統と西洋の演劇を出会わせるための多くの試みもされている。この『霸王歌行』もその一つであり、しかも大きな成果と言っていだろう。

2000年の時を超えて人々が愛した中国の物語、伝統演劇の様式、そして現代演劇の文法が組み合わさって、愛に関する叙事詩が生まれた。白い幕を赤い液体が流れ落ちるシーンが繰り返される。この赤は、2000年のかなたと現在をつなぐ血の流れだろう。そういえば私が演出した魯迅の作品も、つながりや流れを背骨にした。中国古代に起源をもち、中国だけでなく日本でも愛された物語を魯迅が膨らませたのだが、みんなが好きだったその理由を上演を通じて探したいと考えた。王さんがこの作品を選んだのも、ただ愛の物語だからというだけではないだろう。国を超えて愛される項羽と虞姫の物語が、どうしてこれほどに人々の心をつかむのか、そのことへの深い興味があったはずだ。それは歴史の流れ、つながりを遊行する試みでもあるだろう。

西洋文化を受け入れる中で、アジアの我々は深い断絶を体験している。現在の生活が、遠い先祖のそれとは切り離されたものだと思ってしまう。けれど、この変化の時代に根が大切なことは言うまでもない。が、状況に対応することも必要だ。言葉にするとひどく当たり前のことだが、だんだんと血の赤に染まっていく舞台をみながら、実は未だに我々を悩ませる西洋と東洋の関係について、それを乗り越えて未来に向かう可能性の光を垣間見た気がした。

中島諒人 (なかしま・まこと)

演出家。
鳥の劇場主宰。大学在学中より演劇活動を開始。2003年利賀演出家コンクールで最優秀演出家賞受賞。04年から1年半、静岡県舞台芸術センターに所属。06年より鳥取に劇団の拠点を移し、廃校を劇場に改造して、“鳥の劇場”を運営。



Special Pre-Talk
スペシャル・プレトーク

巨匠クロード・レジは語る

日時：6月11日(金) 16時～17時
会場：舞台芸術公園 カフェ「カチカチ山」
定員：30名 無料・要予約

出演：クロード・レジ(演出家) 司会：横山義志(SPAC文芸部)

「Shizuoka春の芸術祭」史上、最高齢のアーティスト、御年86歳の演出家クロード・レジが語ります。演劇のこと、演出のこと、人間のこと…。この才能豊かなフランスからの来客を囲んでのとおきのトークショー。歴史的な日本初公演を前に、レジは何を考えているのでしょうか。ぜひ、この貴重な機会にご参加ください。

お申込み：SPAC チケットセンター 054-202-3399

1 劇評ワークショップ

1年間で4回、参加型のワークショップを開催します。課題演目をご観劇いただき、事前に劇評を提出していただきます。これをワークショップ参加者全員がお互いに読み、意見交換を行います。SPAC文芸部が講師として劇評の書き方／読み方を指導します。

もっと身近に劇評を!
「SPAC劇評講座」が
新しくなります!

- 課題演目：宮城聰演出『若き俳優への手紙』 ● 開催日時：7月9日(金) 19時
- 会場：静岡芸術劇場ホワイエ ● 参加料金：無料

お申込み：6月29日(火)までにメールで劇評をお送りください。その際、お名前、電話番号、住所、をお知らせください。劇評は事前に参加者全員に配布します。
※第1回目は課題演目『パール・ギュント』で4月に実施しました。第3回目以降は追ってお知らせします。

2 深蒸し茶流 劇評塾

従来の「SPAC劇評講座」は常連投稿者のレベルがあがり、優れた投稿者の方が繰り返し当選するようになりました。そこで一新し、「SPAC深蒸し茶流 劇評塾」を開設します。従来どおり劇評を募集しますが、入選者だけでなく準入選者もSPACホームページに劇評が掲載されます。ここで3回入選した投稿者は卒業!プロの書き手としての活動をSPACが応援します。

- 字数 2000字程度
- 締め切り 批評対象の舞台を観劇した5日後必着
- 投稿方法 メールまたはFAX・郵便(封書)でお願いします。メールの場合件名欄に、FAXの場合1ページ目の冒頭に、郵送の場合封筒の表書きに、「投稿劇評」と必ず書いてください。

- 原稿には、住所、氏名(ペンネームの方は本名・ペンネーム両方)、電話番号等複数の連絡先、観劇日を明記してください。
 - すべての投稿劇評にSPAC文芸部(大澤真幸、大岡淳、横山義志)が講評し、返信します。
 - 入選者には原稿料10,000円をお支払いし、SPACホームページに劇評を掲載します。SPACの公演に一回分ご招待します。
 - 準入選者もSPACホームページに劇評が掲載されます。ただし原稿料はありません。
- ※従来の「SPAC劇評講座」掲載者で、すでに3回以上掲載されている方は平成22年度より投稿資格がなくなります。代わりに、SPACから劇評執筆を依頼します。

誌上限定!

「県人・賢人・ご意見人」～番外編～

レストラン、喫茶店、CDショップ、ガソリンスタンド、県内チェーンのお惣菜屋さんにいたるまで、静岡県内、街のいたるところで終日流れている人気FM局K-MIX。今年3月まで、毎週月曜日の「CAMEL POCKET」には芸術総監督宮城聡もお邪魔していました。今回は読者の皆さまに特別に番外編をお届け!これがホントの最終回?!

小林千穂:宮城さん「県人・賢人・ご意見人」のコーナー、3年間ありがとうございました。

宮城聡:こちらこそありがとうございました。SPACに来た最初から、3年間も毎週毎週お話をさせてもらうなんて、僕にとってはすごいっていうか……

小林:スゴイ?宮城さんにとってはすごい事なんですか?

宮城:同じ所で同じ事を続けているっていう意味では、そうですね。例えば、それまでは東京に住所はありましたが、割と海外の公演も多かったですし、そこに定住している感覚が全くなかったんですよ。SPACのお話をいただくまでは、“一生旅人”っていう気持ちだったんです。自分と自分のグループ(劇団)が旅団のように、ずっと旅をし続けていく……そんな風にして人生を送って行くんだろうなって思っていたんですね。だから「拠点」とか「自分のウチ」みたいな感覚とは一番縁遠い人間だったんですよ。

小林:そんな中でいきなり静岡に来て、静岡に住んで……

宮城:そう、基本的にはずっと静岡に居ますよねえ(笑)だから、SPACという劇場が「自分のウチ」というか「自分のお店」みたいになって、自分が一つの場所において、逆に人を「皆さん、我が家のホームパーティに来てください!」みたいにこっちに呼んでくる感覚っていうのは面白かったですよ。今までとは全く正反対だったから(笑)

人は変わっていくから生きていける。

宮城:僕は、あまり昔の自分を懐かしんだりしないですね。恥ずかしいばかりで(笑) 変わっていくから、恥ずかしくなく生きていけるっていうか……単純な言い方をすれば、いつも「このままの自分じゃ嫌だ」って思ってるんですよ。

小林:今でもですか?

宮城:基本的にはそうですね。あ、でもウチ(拠点としての



SPAC)を構えた事で、少し考え方が変わりました。人様に「ウチに来て下さい」っていうからには、自分も含めて“此処が素晴らしい所”だと言えないといけませんから。

小林:そんな中で、お電話とは言え毎週番組にお付き合いいただいたわけですが、正直なところどうでした?

宮城:正直なところ、最初の頃は、電話がかかってくるまで忘れていたなんて事も多かったんですよ。

小林:えーっ、そうなんだあ?(爆笑)

宮城:というのは、月曜日は公演本番の翌日っていうことが多いんですね。前夜まではゲストアーティストとのお付き合いとかいろいろあって、月曜の朝なんていうのは、それこそ一週間で一番リラックスしている時間帯なものだから、電話とってから、「ああ、そうか?!」なんてねえ(笑)

小林:おまけに私も、テンション高く質問してくるからビックリみたいなの(笑)

宮城:(笑)でも、段々とそれがあるのが当たり前みたいになっていって……

小林:そうして、さすらいの日々を送っていた宮城さんが、静岡に来て腰を据えた生活を始められて、その一部に番組があるという……

宮城:もう、生活のリズムにちゃんと入ってましたね(笑)僕にとってもありがたかったですよ。

自分がセカイに愛されているという安心感を持てるかどうか大事。

宮城:僕は自分が選ばない形で情報が入って来てしまうのがすごく嫌なんです。なんでも自分で選びたい。すぐわがままでね、自分勝手(笑) だから、テレビも全く観ないし。いつも自分の時間を自分で選択していたんです。たとえばダラダラするのでさえも、自分で選んでダラダラしたい(笑)。

小林:そう言えば、以前もそんなことおっしゃってました(笑)

宮城:人生すべて自分で選びたい。流されて何かをしたくないんです。それこそ子供の頃から、人と違うことがしたいというのと同じで、「みんながこうだから、僕もこうしておこうか」っていうのが一番嫌だったんです。小学校のクラスの決め事で、全会一致の中でも、僕だけ賛成とか、僕だけ反対とか(笑)



小林:(笑)じゃあ、クラスメイトの間でも「宮城君は変わってる」なんて……

宮城:思われてたでしょうね? だから小学校時代、授業中一番熱心だった事は先生の揚げ足取り。

小林:(手を叩いて大笑)それは、先生にしてみれば「何て生意気な子供なんだ」って。

宮城:だから最初は問題児扱いされてました(笑) でも、そうやってクラスのみんを巻き込んでいくのが楽しかった。中学以降は、自我の目覚めもあって、アウトローじゃないけど「自分は自分の場所」って感じになっていきましたね。しかも、男子校だったこともあって、女子の目を気にする必要もなく自分の事だけ考えていられたんですよ。

小林:でも、こうして3年間もお付き合いさせていただいていると、小さい頃からのあまのじゃくなところや反抗的なのところも全ては反骨精神の強さから来ている感じがしますが?

宮城:とにかく周りと同じが嫌だった(笑) でもね、これは後々気付いていった事なんです。本当の所、僕がなぜ人と違うことをずっとし続けられたのかというと、「最終的には自分はセカイに受け入れられている」という安心感があったからだと思うんですよ。「セカイに愛されている」と言ってもいいかもしれないけど。

小林:ああ(納得)

宮城:だから、どんなに変な事をしても「自分はセカイに愛されている」って思いこんでいるから、そういう子って、どんなに小憎らしくても、何か憎めないじゃないですか?

小林:解る気がします。そうなんだろうなあ。

宮城:でも、その事ってすごく大事でしょ? 最終的に「自分はセカイに受け入れられている」って思っているか、思っていないか? 思っている子は受け入れちゃうものね。だって、早い話「自分は大丈夫」だって思っているんだから。

演劇は違和感のある他者(自分)と共に人生を生きる練習

宮城:人の事ってよく解らないけど、自分の事はもっと解らないじゃないですか? 何故こんなことで腹が立ってしまうのかとか、何故こんなことでパニックになってしまうんだって、感情が動いた後で考え直すことが多くて。

小林:へーえ!

宮城:そんな中で、いつも心地いい自分に出会える訳ではなくて、むしろ嫌だなと思う自分に出くわすことの方が多いでしょ?

小林:(笑)

宮城:で、普通、嫌なところは見ないで済ませたいって思うじゃないですか? 他人でも好きな部分だけで付き合いたいとか、嫌な人とは付き合いたくないとか。でも、それをしてると本当に深くはなっていくじゃないですか? それは自分に対しても同じだから、心地よくないものを排除し続けていくと、楽なようで、結局は多様性の無い、むしろ息の詰まっちゃうような社会や自分が出来あがっていくような気がするんですよ。

小林:なるほど。狭くてちっちゃなねえ、解ります。でもつついっ排除しがちですよ、自分で気付かないふりしたりとか。それで取り返しがつかなくなってしまうたり。でも、いつか気付かなきゃいけない……っていうか、結局いつかぶち当たるんですよ? 逃げ続けても、ああ、もう向き合わなきゃいけないんだっていう……

宮城:違和感のある他者や自分と向き合う仕掛けが必要で、演劇はまさにその仕掛けであり練習なんです。演劇なんてやるとね、見たくないことをやたらと見られるんですよ、関係が密だから。避けて通れないんですよ。だから、そのトレーニングをする事で嫌な自分とも一緒に暮らしていけるっていう(笑) だから、世の中もそんな風にね、多様なものを許容出来るようになっていってほしいなと思うんですよ。

小林:でも、それって宮城さんがいつもおっしゃっている「演劇は現実、音楽は夢」というキーワードにすごく通じている話ですね。

宮城:そうかもしれないですね(笑)

小林千穂(こばやし・ちほ)

K-MIX/パーソナリティ。藤枝市出身。「K-MIX CAMEL POCKET」(月~木 9:30~12:55)を担当。今年3月まで、毎週月曜日、宮城聡との電話によるインタビューを放送していた。学生時代からお芝居を見に行くのが好き。ライブで体感する事を大事にしている。音楽もスポーツも。

CAMEL POCKET
Mon-Fri 9:30-12:55



L'INSTITUT

東京日仏学院

コンテンポラリー・ダンス 心奪

2010年9月23日(木)~26日(日) 時間未定

スパイラルホール(青山) 料金未定

演出:振付:エマニュエル・ユイン

出演:エマニュエル・ユイン(ダンス)、奥平清鳳(石草流生け花師範)

モーリス・ベジャールを師とし、ヴィラ・メディシス館外プロジェクト(Hors les murs)の助成を受けて学んだダンサー、振付家であるエマニュエル・ユインは、現在アンジェ国立現代舞踊センターのディレクターを務める。2001年、京都のヴィラ九条山に招聘アーティストとして滞在していた際に日本の伝統芸術と出会い、芸術的な深いつながりを築く。そしてその後、石草流生け花師範である奥平清鳳との決定的な出会いにより、2年間に及ぶ創作期間を経て、2人のアーティストは2009年パリのフェスティバル・ドートンヌのための作品「心奪(Shinbai)」を完成。エマニュエル・ユインのソロダンスと奥平清鳳の花を生ける所作とが見事に感応しあった作品。

Shinbai



©MarcDomage、フェスティバル・ドートンヌ「心奪(Shinbai)」より



Les Fourberies de Scapin de Molière



マリオネット演劇 スカパンの悪だくみ

2010年10月16日(土)17日(日) 時間未定

シアターX(両国) 料金未定

作:モリエール

演出:エミリー・ヴァランタン

出演:ジャン・スクラヴィス

日本語字幕付

《人形の本性は抽象的なものです。だから人形は事実と直面した人間(または動物)の不幸な状態あるいは(そして)歓喜の状態を先験的に表現することができるのです。》エミリー・ヴァランタン

ジャン・スクラヴィス演じるスカパンは、自分の利益のためにはあらゆる手段を使って人(形)を操る悪賢い下男。人(形)を操る役者(!)として登場し、等身大の8体のマリオネットに声を吹きこむ。美しさと演劇性を主眼においた演出で魅せる、揶揄とたくらみに満ちた作品。

エミリー・ヴァランタン:フランス屈指の人形師。35歳で自らの劇団を立ち上げ、アヴィニオン演劇祭にも4度参加。氷でできた人形で演じる「ル・シッド」などを上演した後、近年コメディ=フランセーズに入団。「庭園の人形劇」のような庶民的な小規模公演から、リヨン国立歌劇場で上演したハイドンの人形歌劇「フィレモンとパウチス」のような大舞台での公演まで、伝統的手法を現代風にアレンジしつつも、1800以上の登場人物を創り上げる。

お問い合わせ:東京日仏学院
Institut franco-japonais de Tokyo
〒162-8415 東京都新宿区市谷船河原町15 tel:03-5206-2500
www.institut.jp



はじまる
ヨンch

2011年7月をもってデジタル放送に完全移行します
だいいちテレビ 静岡市駿河区中原563番地
www.tv-sdf.co.jp

SBS
イブニング
eye

静岡の夕方は
SBSテレビ

なっとく!
わかるニュースを
お届けします

www.digisbs.com
0120-439817

富士山静岡空港から飛びたとう
ニーハオ！上海・浙江

上海万博マスコット「海宝（ハイパオ）」

5月1日、世界最大級のイベント上海万博が開幕します。
世界の最新技術とすばらしい展示を見に行こう！
ちょっと足をのばして、静岡県の友好都市 浙江省も訪れてみませんか？

富士山静岡空港から上海までたった2時間30分

L'ART D'ÊTRE SOI-MÊME

Laurent-Perrier
CHAMPAGNE
www.laurent-perrier.com

Bruit L-P pour Jean-Baptiste Hugel

S P A C の 応 援 団

平成22年度 SPACの会 会員募集

その1

静岡芸術劇場会員(年会費 10,000円)

特典

静岡芸術劇場でのSPAC主催公演に年間3回ご招待します。
〔新〕ご招待枠をどなたにでもお譲りすることができますようになりました。
4公演以上ご覧になる場合は1割引でご購入いただけます。
チケットの先行予約ができます。(春の芸術祭の先行予約4月18日~23日も受け付けます!)
1公演につき1回、会員証提示によりカフェ「シンデレラ」のドリンクをサービスします。

その2

友人として、同志として
SPACを支える

支持会員
(年会費100,000円)

すべての公演、講座に2名様までご招待します。
チケットをご購入の場合は2割引となります。

その3

SPACと協働して
地域の文化振興を担う

団体・法人会員
(年会費100,000円)

すべての演目、講座に2名様までご招待します。
チケットをご購入の場合は2割引となります。

その4

SPACの活動を
広報宣伝していただける法人・企業の方

法人サポーターズクラブ
(年会費無料)

SPACのウェブサイトにお名前を掲示いたします。

SPACの会員の方のご観劇までの流れ

- 公演のご案内 チラシ、観劇申込書が郵送にていち早くお手元に届きます。
- 観劇申込み 前売り開始前の先行予約を受け付けます。Webか、お電話または窓口にてお申し込みください。
※ 支持会員・法人会員のみFAXでも承ります。
- 当日 公演日当日、SPACの会の受付でお名前をおっしゃっていただき、チケットをお受け取りください。

支持会員にはカフェ「シンデレラ」のドリンクチケットを当日贈呈。静岡芸術劇場会員は会員証をご提示いただければ1杯まで無料になります。

お申込み方法 会員の種類、お名前、住所、電話番号、メールアドレス、FAX番号を記載の上
FAX(054-203-5732)または、E-mail(mail@spac.or.jp)までお送り下さい。

問い合わせ先 財団法人静岡県舞台芸術センター 芸術局
(TEL:054-203-5730 FAX:054-203-5732 mail@spac.or.jp)

■平成22年度SPAC事業予定

時 期	公演(事業)名等
4月	「SPAC俳優による朗読とピアノの午後」 会場:静岡芸術劇場1階ロビー 構成・演出:大岡淳 出演:SPAC
5月	有度サロン公開講座 会場:舞台芸術公園 有度サロン公演「エレクトラ」ほか 会場:舞台芸術公園 演出:鈴木忠志
6月~7月	「Shizuoka春の芸術祭2010」 会場:静岡芸術劇場、舞台芸術公園 Noism公演『(未定)』 会場:静岡芸術劇場 県民月間 会場:舞台芸術公園
8月	シアタースクール発表会 会場:静岡芸術劇場
9月	SPAC-ENFANTS公演 会場:静岡芸術劇場 振付:メルラン・ニヤカム 県民劇団「真夏のインディ(仮題)」公演 会場:舞台芸術公園 サテライト劇団「静火」公演 会場:舞台芸術公園
10月	「SPAC秋のシーズン2010」 『令嬢ジュリー』 会場:静岡芸術劇場 演出:フレデリック・フィスバック 出演:SPAC 県民参加体験創作劇場「世界は踊る~ちいさな経済のものがたり~」 会場:舞台芸術公園 作・演出:バスカル・ランペール 共同演出:大岡淳
10月~11月	『わが町』 会場:静岡芸術劇場 演出:今井朋彦 出演:SPAC 「SPAC俳優による朗読とピアノの午後」 会場:静岡芸術劇場1階ロビー 構成・演出:大岡淳 出演:SPAC
11月~12月	『しんしゃく源氏物語』 会場:静岡芸術劇場 演出:原田一樹 出演:SPAC
1月	「ドン・ファン」 会場:静岡芸術劇場 演出:オマール・ポラス 出演:SPAC
2月	異才・天才・奇才SPAC子ども大会 会場:静岡芸術劇場 SPAC高校演劇フェスティバル 会場:舞台芸術公園
3月	「グリム童話~少女と悪魔と風車小屋」 会場:静岡芸術劇場 演出:宮城聡 出演:SPAC

チケット情報

[一般大人1人] 4,000円 [同伴チケット2枚] 7,000円

【ゆうゆう割引】

70歳以上の方を対象に、一般または同伴チケット料金が1割引となります。ご利用の際は必ず予約時に「ゆうゆう割引」でお申し込みください。



大学生・専門学校生 2,000円 高校生以下 1,000円
※公演当日、受付にて学生証を提示してください。



3演目セット券 10,500円
※好きな演目をお選びいただけます。
※電話予約・窓口販売でのお申込みができます。

チケット前売り開始 — 4月25日 [日] 10:00~

電話予約 SPAC チケットセンター
TEL.054-202-3399

ウェブ予約 <http://www.spac.or.jp>

携帯電話からの予約
<http://www.spac.or.jp/m/>
こちらのQRコードからもアクセスできます。



窓口販売 静岡芸術劇場チケットカウンター
電話・窓口受付時間/10:00~18:00

セブン-イレブンでの販売 (店内マルチコピー機)

当日券・当日券の有無を公演当日必ずお電話にてご確認ください。
〈静岡芸術劇場での公演〉公演当日朝10時より、静岡芸術劇場チケットカウンターで販売します。
〈舞台芸術公園での公演〉開演の1時間前より、会場となる劇場の受付にて販売します。

※ご予約受付は公演前日の18時までとなります。

無料バス情報

Shizuoka 春の芸術祭 2010 観劇ツアー無料バス from 東京

運行スケジュール	公園＝舞台芸術公園	劇場＝静岡芸術劇場	お申込締切
① 6月 5日(土)	9:00渋谷発 12:30公園着(予定)	19:30劇場発 23:00渋谷着(予定)	5月25日(火)
② 6月12日(土)	8:30渋谷発 12:00劇場着(予定)	6月13日(日) 18:00劇場発 21:30渋谷着(予定)	6月 1日(火)
③ 6月19日(土)	10:00渋谷発 13:30劇場着(予定)	6月20日(日) 17:30劇場発 21:00渋谷着(予定)	6月 8日(火)
④ 6月26日(土)	10:00渋谷発 13:30劇場着(予定)	6月27日(日) 20:45劇場発 23:45渋谷着(予定)	6月15日(火)
⑤ 7月 3日(土)	8:00渋谷発 11:30公園着(予定)	7月 4日(日) 16:10公園発 16:30劇場経由 20:00渋谷着(予定)	6月22日(火)

乗車条件
乗車で希望のバスが運行される週末の公演のうち2演目以上ご観劇の方

集合場所・時間
◎集合時間は出発時刻の15分前
【往路】青山学院大学正門前
(青山キャンパス:東京都渋谷区渋谷4-4-25)
※バス停車場まで係員が誘導いたします。
【復路】舞台芸術公園ロータリーまたは静岡芸術劇場前

お申込受付

◎SPACチケットセンター TEL.054-202-3399
◎E-mail バス予約専用アドレス bus@spac.or.jp

乗車で希望のお客様は、1.氏名、2.ご希望の日にち、3.人数、4.当日ご連絡が取れる電話番号、5.6月5日(土)希望の方は往復か片道(往路か復路)かを、電話またはメールにてご連絡ください。

●このバスは定員になり次第、締め切らせていただきます。観劇予定のチケットは必ずバス予約の前に電話・窓口・ウェブにてご予約ください。メールの場合には必ず件名に「バス乗車希望」とご記入ください。●到着の時間は概ねの時間帯です。上演時間、出発時間、交通事情により大幅に変更となる場合もございますが、責任は負いかねます。予めご了承ください。●事情により、集合時間、行程を変更する場合があります。●バス移動の際、車内禁煙・シートベルト着用とさせていただきます。ご協力をお願いします。●昼食・夕食・お飲物は購入する時間場所が限られますので予めご持参下さいませよう、お願いします。

交通情報

静岡芸術劇場

JR東静岡駅南口から徒歩約5分、グランシップ内。JR東静岡駅は、静岡駅より東海道本線で3分です。静鉄長沼駅から徒歩約12分。



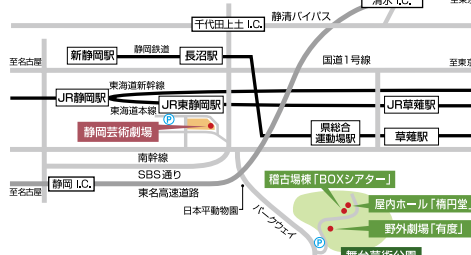
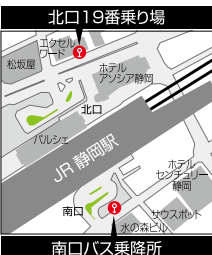
グランシップ一般駐車場をご利用ください。

舞台芸術公園

野外劇場「有度」・屋内ホール「楯田堂」・稽古場棟「BOXシアター」

バス	JR静岡駅 北口19番乗り場	JR東静岡駅 南口2番乗り場	舞台芸術公園
12:30開演	11:22	11:32	11:43
13:30開演	12:22	12:32	12:43
11:00開演※	10:05	10:15	10:30
13:00開演※	12:05	12:15	12:30
16:00開演※	15:10	15:20	15:35
18:30開演※	17:35	17:45	18:00
19:00開演※	18:05	18:15	18:30
19:30開演※	18:35	18:45	19:00

※印のバスはチャーター車になります。静岡駅での乗り場は南口となります。ご注意ください。(係員が立っています。)
※公演終了後は東静岡駅経由静岡駅行きバスが運行されます。



日本平動物園より1.8キロ左手、舞台芸術公園内バスロータリーに駐車してください。



☆静岡までの高速バスは以下のウェブサイトをご参照ください。
【高速バスネット】
◎PCからのご予約
<http://www.kousokubus.net/PC>
◎携帯電話からのご予約
<http://www.kousokubus.net/k>



☆富士山静岡空港からのアクセス
JR静岡駅までの所要時間：バスで50分
お問い合わせはすべてジャストライン株式会社
TEL.0120-012-990



お問い合わせ

財団法人静岡県舞台芸術センター
〒422-8005 静岡市駿河区池田79-4 TEL.054-203-5730
<http://www.spac.or.jp>

助成：平成22年度文化庁芸術拠点形成事業

後援：JAPAN FOUNDATION 国際交流基金
静岡県 静岡県教育委員会 静岡市